

新編江戸志卷之七目錄

一 赤坂 三河臺

一 青山

一 榎田原

一 恩田

一 長者丸

一 釣匙橋

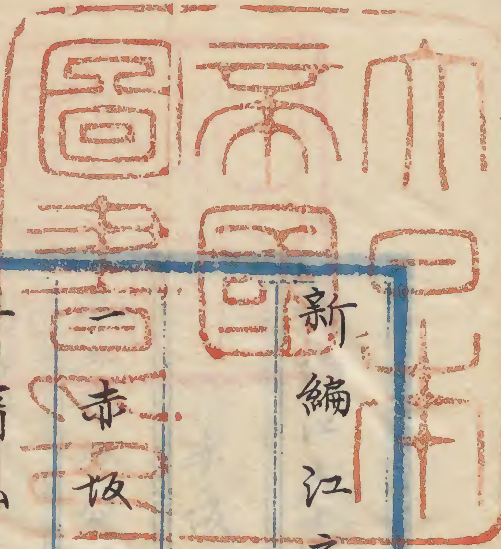
新編江戸志 自七至八

一 目黒

一 大崎

一 碑文谷





新編江戸志卷之七目録

赤坂

三河臺

全井

青山

権田原

恩田

長者丸

鈎匙橋

浪谷

玉池

鶴澤

羽澤

馬牽澤

一世田ヶ谷

麻布

谷町 東飯坂 雄狸穴 廣尾

日ヶ窪

櫻田町

白銀

目黒

大崎

碑文谷

江戸志



一 田原 大野

野文谷

一 田原

一 田原

東山 田原

田原 田原

一 田原

一 田原

田原 田原

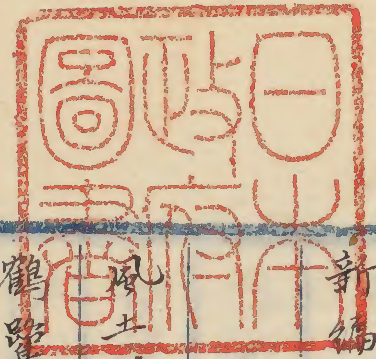
一 田原

田原 田原

一 田原

田原 田原

新編 江戸志 卷之七



新編 江戸志 卷之七

赤坂

風土記曰公穀三百六十九束三毛田假粟二百二十三丸實麥稗又實

鶴鷺云々

南向着話云赤坂の号赤坂の地有れは赤坂の地也

あつて山の土着きり赤坂の地也

の地也

とより赤坂の地也

赤坂の地也

赤坂の地也



氷川神社

小六ノ宮ト云

聖護院

別當大乗院

風土記云赤坂莊小六天神或古呂故圭田三十五束三毛田天武天皇三年甲戌十一月始テ行神禮有神戶真戸所祭大己貴與少彦名園韓神也号小六者以古呂故岡名也

按すふ園韓神トシハ神社考云在宮内省延曆遷

都時造管使欲移之他所神託曰唯在此所可守天子延

喜式園神座韓神二座仲冬祭之云

平高潔考曰古史紀云速須佐久男神ハヤスサノヲノカミ娶大市姫生子

大年ノ神社其大年ノ神娶伊怒比賣生子大魂神次

韓神次カ子ノカミ曾富理神云

園神ハ古史紀云曾富理神也トされハ

續古今集

少将内侍

古史紀云小六好ミミキニ何小そのかく神オミミキニ何ミ

江戸雀子菊社ハ天曆年中其草創のトリ江戸破ヤ子ハ菊社ハ

赤坂南門の外ニあり享保十五庚戌御造管向りて今の所ニ遷座あ

り祭礼六月十日隔年有りと云

真雄云或人予子諱リミミキ赤坂の名王秋本八郎左衛門之祖ハ

甲州出きて秋本彰母ト云其子助左衛門子久左衛門子

小六ト云ハ兼應の頃の者之云氷川祭礼を再興一信仰

也トより世人小六の名トヤリヨリ氷川祭礼ハ十一月十日



たつしを享保十五年庚戌六月十日夕水川より今の今井  
谷へ移されり云々既に其六月十日の祭礼なり云々

又曰水川別当大寺院ハ芝神明社人跡後修程り右左借と  
いひしと彼小六社之兼應年中別当と一附並しり始め有  
り一赤坂名主當秋本八郎方長面より移りしり云々

三河臺 今井 氷川社の上也

むろー松平三河守忠直卿の御殿の跡有る云々名附る由有り坂禪  
閣兼王寺小大木の榎有りて一本兼師と云下一本の大木ハ元氷川  
糸天社社内の榎之但下一本も兼師在り清原氏の兼師有り是  
上一木の兼師と自作同本有る由中傳へ有り

一赤坂田町町家とあり一寛永十二年同十三年同年子町家とあり

一赤坂傳る町の町家とあり一寛永十六年の子あり

一赤坂御門外の稲荷を玉川稲荷と云ふりこれ水乃方玉川左

左の勧誘の稲荷王を神木子柳有り上古赤坂御門端黒田家館の辺

迄の間を柳境と云ふ是上古秋元八郎左の畑境の柳の由一黒田家

辻書本乃例子並之柳を右古柳の内の本有りと云々

薬研坂 松平左兵衛殿居居前分吉山の字に石間の地あり

江戸庶子云々やけんのおくたふ云々又何方高坂とも云有り何  
ち染つと云狂言の老住ると云々

鈴振稲多社 下一本今井 別当 山伏室藏院 預性院



里終子云天幕如以積産のより元禄八年録以不れ移せしと云

田通寺坂 日蓮宗園通寺と云ふに赤子有坂あり

行合坂 今井村より上り坂あり

今井城跡 曰不松平安安藝守殿屋敷の跡

江戸秋子曰田子先生義賢ハ多磨郡ノ阿ノ恵源寺義平と合戦  
の付義賢の出城跡と云或ハ今井兼平ノ城跡云より一本  
あり跡名別當実盛ノ城跡と記きり

鰻の井 曰不

江戸麻子云は井子きき出汁りの鰻何々と云りも清治のありと云

富士見坂 松平出羽守治郷卿屋敷あり

江戸秋子云云終りるはちりる不富士山見ありふより云云

赤坂御門

或人のりまゝ赤坂の見付ハ寛永十二年己亥十月十日より始めて建  
徳来と云と赤坂名主秋元八郎左方北面出為何々と云と又曰左の  
秋元八郎左方古帳面より由八郎左方ハ貞雄物りりの由書  
付為書り

一 貝塚と云り赤坂鞍ヶ橋を云上古ハ大久保下町本町の木市谷花  
町より自辺まで貝塚と云南の方より西の久保崎まで町辺まで貝  
塚の内にと云

一 赤坂一本町の町家子あり天正十九年此よりあり



一上古八人次と書しを後一本と云勢あり是上一木下一木兩所大

一山大本何うと云なり上一木と云傳へしはくさ

三分之坂 種徳寺北の坂

大坂けりしは車を推する時銀三分乃車力増しと云云云

人如説あり

新子場 三分坂の下

古子場 日南武士居る路の名

南部坂 谷町の方へり急なる坂

黒田中なる坂うしろの方より谷町へり坂

元氷川 赤坂傳了所坂の上享保十一年今の今井村に福と云曲

鱗店 赤坂大宿なる方

けり地面三角あり鱗の形なり云云

江戸砂子後篇云むりしは下子風呂家遊女ありと云り

赤根山 紀伊中なる坂の不成云今紀伊國坂にむりし赤坂

と云し江戸砂子あり也亦再江戸砂子云赤根山ハと云

と書武苑此五と苗多くあり多し此の名よく名なきも苗よ

きありしは苗を多化しと云り何りてあり其の轉訛を地名多

しと云

一本 上二本と四谷較々橋迄を云下一本ハ赤坂あり

大永四年正月十三日北條氏綱上於朝興小打傍敵の首を穿挿し一本



系小鷲子上依法の如く傍園をとりおさめしし由謙倉九代記に  
見ゆ

鷲御門

能長寺中庭の西門之は小鷲子傳る所あり

黒湫谷

園通寺西の下谷之銀谷あり

時之鐘

田所浄土真宗成満寺あり

櫓多敷

今井より竜土丸より杉多敷左史殿中庭あり

云大松の木多敷あり

寺院

日照山清岸寺

浄土宗

智恩院末下二本

開山性蓮社真譽得生大和尚

十一面觀音寺内安置江戸三十三所の内第十九番あり定朝法

師の作甚丈の寸分なり

寺傳云抑は筑紫八人皇百十一代後光明院の御宇江都山下町子道祐

と云隠者なりは像を修して草庵に安置するに年久し然るに其の

四年十月廿五日秋冥夜を感て大士を祐に告ぐに汝深く我を修する

因て我亦汝を尊と儀するに我を一寺の境内に祐に安置するに周く

衆生に利するに便にせしむる是まが所なりと云ふに其の感應を

道祐の少少は像他へ遷んるにかけれと佛の形をかくかく南

寺子孫ありてうけし安ん諸願満足乃其願何事なくかぞへり



池見山威徳寺 真福寺末 可和

開山勝金法師

信康山奄泉寺 浄土 智慧院末 可和

開山肇蓮社源誉上人隨流一法大和尚

寛永元甲子年起

川勝山法安寺 同 増上寺末 三分坂寺口

開山源蓮社廣誉秀学光悦和尚

藝國山西教寺 浄土末宗 西本願寺末 一本

開基釋明誓法師

秦嶽山大安寺 禅宗 大申寺末 可和

開山門解闍大和尚禪師

平河山源照院 浄土宗 増上寺末 一本寺所

開山明蓮社教誉上人聖公和尚

文龜三癸亥年五月十日寂修古平河日子有まより白浪所の禱

亦糺所十町目今の成津隼人西辰 西辰邊子何り寛永十三年

苗和子禰さる開山より苗恒冲誉上人子とく九二十世ありと云

再板江戸秋子子御城内平河日子何り文龜三年苗和子禰さる

寺大寺の禰さる

觀音堂

孝僧に曰は是像ハ人皇百一代後光明院の震筆殿多何り

内務省

内務省



東福門院寺菩提の處あり此寺に欲く多き事いし清菩提乃為る  
清子自以親善此像を強り他よりたすして極極志平の改  
以子ありしと凡事安量し多しん子を思ましく南寺に納めら  
其強いちと多き事いし清菩提乃為る

塔頭 常照院 雲洞院

竜徳山松泉寺 禪宗 妙心寺末 可木専修寺隣

開山

稻荷山園通院 同 同末

一行山弘法院寺修寺 淨土宗増上寺末 寺所園通寺隣

開山寔蓮社曇譽上人通達和尚永禄十一己巳年九月廿三日寂苗

寺永禄年中の起立之儀古ハ青山よりおめく勢至菩薩の王所り  
あり草堂行りしと永禄此以曇譽上人此草堂院開て一字を  
建立其末二世誠譽上人の時歩級此川の神の道不子稱く元禄八乙未  
二月八日四谷より出方子依て新編く御古佛用地に上り同所隣西尾  
隠岐寺殿下屋敷地とて下別是今の寺地あり開山より現任心  
蓮社誓譽上人義宣和尚と九十三世子りし

本寺阿彌陀 古心作 清丈三尺余

祐守系戈天 弘法作 廿三秋侍大勢至菩薩古佛金

佛作不知土中出現地苑菩薩

佛智山園通寺 日蓮宗 玉沢末



開山佛壽院日通上人

靈鳳山種德寺 禪宗 大德寺末 赤坂三分坂下

開山本光智燈禪師因て本光山と云門の額子東光山と云り天

正十九年先住聖傳智禪師相安小田原より糺町十日引

糺寺と云て

醫王水 吳井何り 塔頭 松冷院 栢樹院

清涼山寛永寺 浄土真宗西本願寺末 日所三分坂上

開基親孝念

康寧山孝福寺 日宗 日末

開基若海 塔頭 徳母寺

光瀾山道教寺 日宗 本願寺末 寺町

開基檢律師政受祐念生國三州父佐野傳方進門政長と云明暦元

乙未年五月朔日入寂當時起立年代不知性古糺町神保小路より寛

永十二乙未年二月廿日今の地小糺寺に開基より現住小玉八世

德靈寺 日宗 西本願寺末

萬廣寺 日宗 東本願寺末

浄土寺 日宗

清光山常玄寺 日蓮宗慶印寺末 一本大安寺隣

開山日盛上人

笑柳山報土寺 浄土真宗 東本願寺末 一本松泉寺隣



開基永受法師

原欠

正善寺

天台宗 上野末

今井村三角谷所

開山

今井山妙福寺

淨土真宗 西本願寺末

口不

開基

原欠 西光寺

口不

開山

中根山明福寺

淨土真宗 东本願寺末

口不

開基

原欠 道深寺

淨土真宗 天德寺末

口不

萬輝山陽泉寺

禪宗

牛込保長寺末

今井

開山雲光禪尚寺

開花岳山法音寺

口宗

泉岳寺末

口不

開山

開法臺山大宗寺

口宗

甲州大泉寺末

口不

開山

原欠 崇嚴寺

淨土

今井村智慧院末

口不

開山

原欠 妙像寺

日蓮宗小湊末

口不

開山

内務省

内務省



無量山園祇寺 淨土真宗 今井谷 日永

開山 淨土真宗 今井谷 日永

淨土真宗 今井谷 日永

開山 淨土真宗 今井谷 日永

金杉山江龍寺 禪宗 德泉寺末 日永

開山 淨土真宗 今井谷 日永

綴妙山真性寺 日蓮宗 池上末 日永

開山 淨土真宗 今井谷 日永

綴妙山真性寺 淨土真宗 西本末末 日永

開山 淨土真宗 今井谷 日永

大寺院 氷川別當聖護院 日永

享保十四年一不<sub>レ</sub>今<sub>レ</sub>地子<sub>レ</sub> 日永

淨土真宗 東末 赤坂

開基 淨土真宗 今井谷 日永

海雲寺 藝州園前寺末 今井谷 日永

開基 淨土真宗 今井谷 日永

澄泉寺 高田門徒 日永

開基 淨土真宗 今井谷 日永

無量山園祇寺 東末 日永

開基 淨土真宗 今井谷 日永

内務省



青山 渋谷之内

天正の改は辺山口修理亮重政住居麻布辺多々地あり内七  
万坪を分て智之丞主水正次の屋敷と少く一説に少く青山  
者成十石の時今青山の地一畝子屋敷之屋敷者後者後幸成足才街  
道を隔て住居と二抄ふ山口一處清和氣とて何れハ屋敷の地を  
青山家子賜りしふや志すとも今子山家子の屋敷を跡りてとあり山  
口家子本家地を比々渋谷の方へ青山家の地とを錦程隔り尚後人  
尋ねし  
改撰系譜に云天正十九年青山を陸介忠成子以不宅地子賜り  
有是より青山と号すと云

駒留八幡 青山家左衛門

往古此辺に寺成り最青山家へ命せられ走らす心一畝子宗廻り  
一寺地を命せし由命子依り命せし地の地あり是より寺あり  
是地寺あり塚子寺上八幡の寺成り勧請あり青山家より是成  
弱留八幡と稱し世俗破色八幡と云はるあり

権田太原

江戸歌云むろし権左左門右衛門と云人住居此地と云

按はる権左氏系圖に西行と云人不足ゆ一権左家を為系の姓  
子一と権左小二郎玉廣上院玉小野田郷子住居始て権左と稱す  
其後代々至長子住居権左左門宗信足利將軍義輝公子住居

内務省



と云々 災難間記曰慶長十九年七月檀太小三郎於江戸死  
其好家財收公せしむるといれに疑ふらくは此人の居宅の跡  
なりと

再板江戸砂子云前板北説誤之傳入因より檀を隼人と云傳代友  
居住何しと云と何し

熊野社 原宿 別當 三光山淨性院

諸神記曰伊弉丹尊速玉神泉津事解神是之所権現也ト云云  
社跡の末裔惟つたつれと云ども青山の熱湯寺之於少礼九月廿  
日あり

再板江戸砂子云記伊弉熊野三山勅語青山の跡也本志新吾那

智是也熊野三の山と云祭神伊弉丹尊早玉之男事解此男三神あり  
日本記子伊弉丹尊生火神時被灼而神退去矣故葬於伊弉國熊野  
の有馬村

封乃井 所不詳

青山大猿亮殿内子の内子あり此水懸水なりと空観法師加持し  
子忽冷と下りて型なりと又江戸熱湯子名不大全に曰封の井横田の  
内不詳此水懸りし子空観法師加持し清冷の泉とありし  
空観を幻術者なり配流せしと云々外横田上杉家内包委向松平  
家の内包委子名水ありは井あり一説子横田あり青山の山ありと云云  
掃除飯 青山殿屋敷あり

内 務 省



江戸麻子云歩掃除の麻子名と云

飛鳥稲荷社 歩掃除所也

歩掃除板倉沙他と云一人の麻子の孫也

理堤 右口下の辺ふり昔の堤と云ふちひさき土子行くと

むろしの形ハ<sup>ね</sup>はけりむろし強くと云

百人町

青山常陸介忠成子於駿府に久野宿但百人成りてさるり天正十

八年小田原の小幡取滅後関東歩打入翌年青山忠成三苗不<sup>正</sup>宅地

子賜ふ時曰く与力同心同村子いふ事也お領所と云ふ青山

あはれ子也

恩田

南向義話云先年恩田氏の物語り小先祖近江源氏依木末流より此地に

居住より恩田と稱号と云ふ事家々代傳と云ふ

御嶽社 百人町の先 古傳所也

長者丸 百人町の南

江戸麻子云むろしは小川濃谷長者と云ふの住り代々雅名成重丸と云

濃谷乃末孫ありと云ふ事以白銀村小白金長者と云ふの所よりまお對

て黄金乃長者ともふとの應安の成りて盛んなりと云ふ事孫成りて

むろしあり百姓はく北辺より法より今よりんる事と云

長者の墓 長者丸

門 藤 雀

内 務 省



里談云杉末氏居此の内子阿ノ垣結まきりて小字手墳之上大杉樹  
ありと生茂りて阿ノ

貞雄云此墓丹羽家の内子阿ノと記し一人あり何事か詳

ありやと云

姫下坂 阿ノ

里談云滋谷長者の娘が、多物もて供人大勢具して往來せり阿ノ  
此坂を心より祈りて阿ノまゝ坂の名とすりてなり

香具橋 又阿ノ<sup>カウカイ</sup>橋 或ハ國府方共書 位麻布の内ふ 属ハ

南向茶話云古老の説に此不國府方村と云ふより玉府方橋と云ふ  
以説可なりん然一本ハ武野豊後郡小貝乃阿ノ橋と云ふ小貝橋と

云ふ事からがし橋と云ふと記在又江戸麻子云はけ小香具村と云

故小香具橋と名付しと之ハ或ハ曰鶴居橋と云ふ事鶴居と云

とも之ハ江戸麻子曰大むりりて経巻橋と云ふ事ありけ川昔ハ就川

と云大河之天茶二年平好門平良望を教へ下後云おる郡石井口子

内裏云云六孫王修巻武苑の郊築郡より羽書と云ふ事ありておる之招

く其橋を志しんと下後云多しゆ路小竜川子掛る越後の前日唐と云

者真世王に興し竜川子園を居て旅人をさうむ於爰強巻帯刀

の以并を閑守ふ下ト是後日の證なりと云ふ事あり強巻橋とい

たふ事ありて康平六年三月源頼義苗不旅陣の時其名を以て

むいふれ阿ノと阿ノ橋と改ふ事ありて傳ふ一字を建く阿ノ

阿ノ橋

阿ノ橋



殿と崇しと云其鉤匙親王院子何しと云此親王院は淡谷東  
福吉の寺に傳りかうぐい今子東福寺の寺と云亦在板江戸砂子子  
市入國の御地におありて甲賀組伊賀組に及ぶをいふと云此院  
子掛し橋が甲賀伊賀橋と唱しと唱傳りしと云  
貞雄云かうい橋の寺ぬ形説多き中子南向茶話子何し國  
府方村の説誠あるか河井キマと云人の菊本子天西の江  
戸迄鄙の國何し此國文説分ぬりて歎ふ不き古事多れ  
予も懇望し字しぬぬ傳りしと云千餘ヶ谷淡谷と云る間小  
玉府方と記し何しと云南向茶話の説不適合と云  
説の疑惑をいふ

五色橋

再板江戸砂子云長者丸高木主水河殿下りて何しと云此橋白紅  
の肉小お色の花代に代歎ひたき物と云

主水町

高木主水河殿下りて何しと云

淡谷重國屋敷

何事云淡谷也昔時是地内橋正殿下りし地の地あり又富氏慶  
福と云わの、重君と云と云

通明觀

右岡部家別荘の名之此地何し遊賞悉備きと云と云

内務省



五段田

同書に曰長者が北長谷寺に造る山家屋敷のうへに造る城さしと云とて

寺院

寂照山多徳寺

浄土宗

智恩院末

善山徳野社近辺

開山見卷上人

長青山寶樹寺栴院

日宗 日宗

日宗

久保町分善山大寺へ  
あり南側教覚院末

開山觀智國師寛永年中起立

觀智國師の今の山上栴院の内より及赤坂領より即玉師師屋敷と申すは寛永十二年の江戸古傳にも見えたり本寺阿沙陀聖徳太子

の作三社告有りて彫刻あり三社の他にも云開基善山家青山寺像  
幸成兄弟の跡を隔て右位有り銘も善提所有りて屋敷の内より  
幸成の寺と街道より南側を以栴院之寺像は寺を小例あり今  
の王窓寺なり

泰平親善

境内

金佛千手座像

浄土寺より

抑天竺より大座を不承三藏傳來一大唐より澄真法師名經の阿  
比像を造りて天平十五年癸未正月十七日聖武帝へ献し今同十二年  
乃奉詔をうけて此像を南都大佛殿の例子納し今後冷泉院の浄宇  
源於義勇州伊達郡子市堂を建立し佛供料を寄附せり今後八幡  
護り今奥州伊達郡子市堂を建立し佛供料を寄附せり今後八幡

内務省



左即義宗法系氏近討供子補き此軍小諸利を以て賜ふおよ此  
親重是より供料を増加し十二日の僧坊を附置る小正後右大將於此  
泰衡近討の時も寺燈供料増成しゆ天正十六年丁亥十一月二日兵火の  
多き寺堂僧坊古悉焼滅しと曰録に後行の寺あり是より縁起ハ泰  
平時並此別當僧正覚慶天正十六年に在り此れ此寺後仙臺家の臣  
於本寺後と云人教りやしきの廊内へ小寺堂を建て安永八年七月廿  
十二月伊達家と上杉家と夜討の事ありと又其無小寺堂焼失し去きと  
是寺像を恙なく存あり近世寺堂の方よりやむ子なき供子侍りて寺府  
内へ移り奉りて青山家の寺に護り奉りたりと西の縁起に云く  
楔地藏 慈覺大師也南院九世の現任順譽唯然和尚養中感得の具

像なり

羅漢堂 釈迦十六羅漢乃像二十五の菩薩安永

百濟稻荷 享保の初大和國百濟より縁山へり向の僧不記して柳窓精

舎子法隆寺よりと永く衆生救済せん之像一社造立有り此人法隆寺

初ふ其縁源一初者白狐のより近隣の民が救ふると云余毛あり

至て白しと看板江戸砂子も記せり

拾櫻 弟二世峰世上人門ありと苗木を拾ひ自ら植ふ事ありと

之々も大本となり新いなきありと云く也此門長音山の額黄蘗悦

山禪師の筆あり

竹園山教覺院 天台宗 山五末 日永

山五末



開山法尔岸能

心見親者 聖徳太子所作 名木の糸さくしり

南命山若光寺 佐州若光寺の若者 曰尔

本寺神師中将姫秘佛之中お姫の簾名跡と云けり寺从ある南寺  
元祿の頃谷中より宝永の頃爰小福より旧地を今も谷中若光寺  
として谷中より根津より坂の上より松平伊豆守殿下屋敷裏門を今乃  
五枝寺の地面の内なり

曹溪 繁國山青原寺 禅宗 竜徳寺末 曰尔

開山雲岡俊徳大和尚

崑崙山玉窓寺 曰 青松寺末 曰尔

寺傳云開山普光禪師開基ハ青山泉之川口長三郎近次室を青山伯耆  
守忠傳ハ女之則南寺開基ハ長六年六月廿日歿ス法号玉窓秀  
祐大姉ト云

普陀山長谷寺 禅曹洞宗 林大中寺末 曰尔長者丸

開山門庵完閑和尚

江戸政子白天下十二年湯池の上より移る本寺親善和州長谷のうは  
立像を史ハ大御政ハ長谷と曰作之と云此寺始を龍雲寺と号せ  
ハ後尔長谷寺と改む

法書ハ杉系稲荷

古佛倉古佛故不知谷作仏より希世乃靈像の一庫子充滿せ



り維摩の丈室とも云ふに境内凡三百坪余ありと云古木松茂  
交へ大門より中門まで三町をうらたふ大木並ひあり中子殊目と  
とむるを之聖志年の大木根よりきま斗り上より松葉四方に茂りて  
樹と稱しけりありて其境寂然として江南第一の勝地なりと江戸惣  
庵子名取大全より有り

亦曰山口宗信云南寺は昔山口重政開基なりと云其の内院分て善院  
不と有り毫雲院と云重政系次公の爲に起立せりありて母公を懐回  
信秀の宗臣是部彦九郎正房女より寛永二年乙丑三月廿九日  
崩りて江戸子強法師号長谷院殿南室妙薫と号し其後崩りて山口  
家の墳墓不殊其家の内に入り取長谷寺と墳を隔らるる

青山海藏寺

禅宗 黄蘗末撰只瑞庵寺末青山系宿

開山空洲和尚

中興密山和尚 寛文八年起立

再板江戸牧子白唐板一切経南寺より出ると云

微妙山寶相寺

禅宗 月桂寺末

開山湘水大和尚

古碧山庵岩寺

曰 八王子國 廣寺末

青山

開山喚室和尚

元和八十月廿四日寂

松壽山梅嶺寺

日蓮宗 本末古末

曰不

開山日達上人

速栗山持法寺

曰

本末古末

曰不

福

内務省



開山了種院日祐聖人

蓮光山妙園寺

曰 小湊末

曰 糸

開山園成院日光聖人

稻荷山園通寺

禪宗 妙心寺末

曰 寺掃除町

寺入園後寺掃除板倉駿河と云人邪子依て善山子宅地を編み其地を  
了内子寺掃除法家人駿府より引移南村に居て其の内子菩提寺に建立す  
今の板倉氏より代りて別名通院殿と板倉遺河法名に

長徳山妙行寺

日蓮宗

本成寺末

權田系

開山

原文

慈光寺

浄土真宗

青山原宿

開基

大宝山長安寺

浄土 智恩院末

開山品誉上人

濃谷

往昔矢盛ノ庄と云キ此見左系貞重入道此亦此見左系貞重ノ云

貞重子就見平次左系ノ重明武州濃谷ノ住氏元弘三年癸酉三

月十五武州入間川合戦討死ス

濃谷八幡神社

濃谷

天台

別当

濃谷山東福寺

康平六年村岡五郎良文の弟孫川崎土佐守季家石清水八幡宮勅



諸孺子平三重家金丸十玉の代に諸寺より金丸十玉村名を改め浪  
 谷之氏と改むるハ方村より一矢盛の七郷の産生神之謂不七郷浪谷  
 代々本寺飯飯食麻布一本合井等あり青山と浪谷の内ありとあり  
 開山圖鎮僧正 長和元年寂于時百十一歳  
 正八幡神躰 弘法作 應神帝之尊像  
 月輪御躰 原文 神正体といふまおりの事ありとあり  
 御躰ハ元五申年源賴信千葉忠常退治の時邪としく八流乃籍  
 諸寺を御領し日月二流を村名氏子賜りし於義義家妻州征伐の  
 時此二流を捧ぐ月の鏡と南無子止多くと八幡とと崇む是諸寺の始  
 なり

子安茶師 行基作 源義朝の守佛也

矢拾額書 唐佛 浪谷金丸守佛也

金丸像 自化人と云

金丸金剛夜刃明王の再誕、依く雅名を金丸と云是下文字之平治元年  
 十二月浪谷冠者常光と号保元乱の後遁世行死生志水けとなり

金五椽 境内ありむろの名を夏忘椽とあり

久壽年中源義朝謙倉龜ヶ谷の鎧と椽とあり八幡三河の道の辺に  
 うちの文の以黄金長者とあり浪谷氏の末葉之疫病の禱あり  
 神託ありは 書 本寺の宗特多病禱をのりて江戸破子あり其の一  
 子此椽枯茅の成能お表性院様此さるの實を此屋よりとせり



本内混谷善乃々金五丸の子孫より少くも元年の櫻枯きくを  
歎くをいし其実種の本を是乃々いし櫻枯きくを今の金五丸櫻是を  
新由を記す

法座の松 境内より

江戸歎子云<sup>大</sup>永四年正月十三日北條氏綱と上杉朝真争鬪の原を  
我山時氏経後陣大及寺八部多清混谷攻入放火は時子等像此杉の  
上よりしよりかく名附此杉の數性古を三十六株の神本ありと  
す然る境内より六株あり境内より二三株ありと

誕生池 八幡社より西の方北に金五丸誕生の地

金五丸跡 八幡社西

江戸歎子云了場的場の跡築地の形をより古井も混谷氏代の地也

河崎庄次郎館 八幡北西堀の内と云ふあり

同書より云く本築地ありと云は庄次郎の遺蹟の子ありと云郷の川  
崎川此小に山と社あり是れ其付引と云く稲多社あり

姉尾平次左衛門光景館 日邊

同書云是れ本築地を隔たりとの形をより跡を先系より馬ひやると云ふ  
小池あり清澄の名水の傍より約長なりの榎あり

甘露水

日邊

同書云天孝二年六孫五孫孫孫南より旅者あり時此水を持て味い  
ありて甘露なりと云ふありとあり



玉池

玉池といふあり

曰書云天女の吹早魁し河水と歩け井涌出ると云ふ一坪あり  
を涌し約瓶に二の玉を得て形毬の如し玉精を歸す櫻託是ハ八幡  
寺の神蓋之方水の兵火で除け此井より速に神祠に納むべしと云ふ宝珠  
を子身福寺より取りまじり是を玉の井と云ふ今ハ玉池とよひく所乃  
小名となすといふ

乍候塚

一名去我若塚百人町の通田村隠岐で解下る處

金三丸の足跡と云渡り方二十間高お余尾より見ると二三里の間に  
子なり幸々甲士筑波房儀の山と眺望斜なり其憂悲苦悩を云因  
名付り曰ふは是なり

鎌倉海邊古道

右の塚の形ちを子跡あり

神山水

八幡西

むくし神仙人此谷より不老長生の仙薬を煉りしと云其水之妙を  
神山谷と云甲より見る

神山

右の赤子より法道仙の神此より飛来す由曰書あり

朝霧の滝

深谷

むくしは里子深谷宗順と云長者有り孫子娘と小娘をかくり何年  
の春園證寺に様を祀むと云父母よりなす彼の古に朝霧とよす  
鬘有り姫をそと高懸る子思ひとげんは滝坪より身を捨ると

内務省



江戸子書

願山 右より小石山なり 願山と云是か小石塚なり 江戸子書  
知證す此旧記なりと云

稻荷社 上原谷 神主山五社 小川御部持

鶴澤 羽澤 鶴谷 淡谷の内

江戸破子云建久二年源頼朝の願路此よりなり 巢をくも 同三月卯を  
たけ 依り 鶴谷と云その 離をくも 羽うつ 羽を羽流と云 其遊ひ あり  
夕雨 成 鶴谷と云と云

淡谷川 三間斗りの山川 寂教院末

氷川社 淡谷川より天台宗別当惠日山宝泉寺

某五院相傳云 尚社と云大将頼朝の 淡谷金五丸 尚社伝  
信より 尚寺と云 慈覚大師の開基と云

松 氷川境内

里談云 尚寺前の多植の松ありと云 古木なり 迦世縁後善人此  
松のより 万代石と云 石を云

道玄坂 淡谷の世田ヶ谷の道之是々 中目黒の境なり

江戸破子云 此坂と云く 上目黒ありと云 其語之 乃玄寺と云 寺  
阿ノ道玄ハ大和回氏之和回義盛一族之建曆三年五月教逆阿ノ和  
回一族之小残黨ハ此の岩岩トカレ山城をたけ 熊坂ノ野ニ  
と江戸破子云

大和 磯 雀

内 務 省







普光山吸江寺

禅宗

開山石潭和尚

寺在根田所上原谷

大獲山妙祐寺

浄土真宗 西本願寺末中濃谷宮崎所

開山源的了性

禪河山东小寺

妙心寺末

下濃谷

開山

系文

復雄云此东北寺

岡崎三郎信康卿茶侍母公筑山の西方侍位

牌行

岡崎三郎信康君

騰雲院殿達岩善通大居士

天正七己卯年九月十五日

清池院殿潭月秋天大妙

同年八月廿九日

傳之曰往昔酒井左衛門尉忠次大久保寺所為尉忠世之信康君  
 の清字之以前此寺ありてすは性之りりれハかき集て是を  
 修りて信康君茶筑山寺方侍生害を偏りて人々を助を  
 修りて信康君茶筑山寺方侍生害を偏りて人々を助を  
 開山源的了性  
 開山石潭和尚  
 大獲山妙祐寺  
 禪河山东小寺  
 開山  
 復雄云此东北寺  
 騰雲院殿達岩善通大居士  
 天正七己卯年九月十五日  
 清池院殿潭月秋天大妙  
 同年八月廿九日  
 傳之曰往昔酒井左衛門尉忠次大久保寺所為尉忠世之信康君  
 の清字之以前此寺ありてすは性之りりれハかき集て是を  
 修りて信康君茶筑山寺方侍生害を偏りて人々を助を  
 修りて信康君茶筑山寺方侍生害を偏りて人々を助を

開山妙應祥師

靈隱山鷲峰寺

禅宗 妙心寺末

下濃谷



深谷山福昌寺 同 下谷之岩寺末 日尔

開山桂岩禪師諱頌和尚 役行者

源秀山室泉寺 志玄宗 泉妙神風寺末 日尔 冥雲寺解下

開山快園直光和尚

瑞泉山祥雲寺 祥宗 大徳寺末 日尔

開山竜岳和尚

南寺之基 田後高智王政の開基之長政の法号祥雲院殿と云江戸

破子云南寺之元基坂屋末内尔在り後外子成て於坂末の後山寺

平後麻布市之傍所子うつさる今云谷町より坂を上り左の所家あり

取之今子西より少の地踏りて南寺の坊之之屋後南亦子福の世に平尾

の祥雲寺と云云此地麻布の平尾の地子近り云傳之云云

塔頭 東江寺 景德院 隆興院 春雪院 天桂寺 真當院 香林院 梅玄菴

長泉寺 禪宗 青松寺末 上原谷

開山 京久

慈光寺 淨土玄宗 東本願寺末 原名

開基 河上

世田ヶ谷

荏原郡也此の平子云濃谷より七軒所へ公了引派と云を通りてゆく  
と何の江戸破子云江戸より吉良正忠十五万石の内御下之世田ヶ谷の



師不と云しと云

諸宗系圖より吉良健十一世成より武州世田谷をのりて一子ありて  
多清依邦康と云と云

九品山唯在念佛院淨真寺 淨古宗 眞正村

開山超譽上人珂碩和尚 延宝六年起立

弟あり吉良氏の城地之と云墨墜の旧跡今より

九品佛

江戸砂子云九品佛一軀くちとて因光の中より佛一千十二軀九品の少佛  
九三萬二千軀也

珂碩和尚武州の人姓は那村氏之元和四年正月朔日生九十八日ありて

生實の天叡寺に入り隨流上人の門下珂山師の弟子と爲る寛永十三年

珂山和尚天叡寺に入り院是靈巖茅二世之此時珂碩隨て天叡寺に入り

江戸北海子孫あり珂碩子ありて土水の事を司りてむより日觀心力を

學し本堂方打ち門庭麻以下期年ありて功を成る儘仍世に三あり

師一日三時を野々造佛の費を充つ寛文四年大なる一鉢を成物を同

七年上中下品の九鉢を充てり別子親迦佛丈六の像を造りて天叡

の地をなす物あり一とを洪波の爲に佛像悉海中に漂ふは時珂碩和尚

が越州に在り是成字に於發し祈りて切あり久しかりし佛像

跡ふは本あり鮎子延宝六年夏沃の口民の招きよつて此地に在り時

小師六指を爲すは此地果寂甚心小叶し終焉の地とて是は九品佛

九品佛



内  
卷  
目  
録

の像を具嚴寺より福草堂に安置是あり九品佛を以て地  
名より延宝八年庚申八月

梅岡八月廿今晚  
丑中刻未刻迄方也

大風おありて草堂倒  
卧る佛像也、毀つて師又是を修補元禄七年甲戌十月七日入寂  
毎年四月三日より土下と弘陀經十部修り多し

大溪山豪徳寺

禅宗

奥沢村

開山鳥堂昌誉禅师 中興同解芝園禅师

再中興大極楽の道禅师文明十二庚子年豪徳院開基是吉良正

忠の伯母なり別南寺参行しと江戸砂子より是謬し之由の

妹あり成高の伯母

延命山勝光院

開山

原久

南寺吉良左衛門依成高長男吉良左衛門依於康の開基之則於康の法号

勝光院殿脱山淨森大居士と云天文十五年丙午十二月五日卒也志

加しと云へども於康の遺骸を相州蒔田務國と云蘇り前田也故分

て前田と云地なり

原久

実相院

日不弦巻村

開山

原久

南寺吉良左衛門依於康の長子実を今川の一族堀越次郎少輔

真基の次男吉良左衛門依氏朝之開基之氏姓を踏所の源名陸奥守

一秀才あり氏姓より今の吉良左衛門督義豊よりなり元七代より及ぶ

内  
卷  
目  
録



氏朝の法名と実相院殿学翁玄参大居士基号八年癸卯九月  
六日卒去なり位牌右塔にあり

（Faint bleed-through text from the reverse side of the page, including characters like 麻布, 阿左布, 武藏國, 細貫, 相傳, 寺, 阿左布七村, 竜土, 権國）

新編江戸志卷之七下

麻布 阿左布共 又麻生共

麻布の号をばふ多磨川より近き故此布をて信古ハ麻布と多々極品  
き布採織出さるより名ありん多磨郡も布多村と云けりと平調  
布なりと多々をのり織出さる由参考大平記に武蔵野合戦の条下  
見玉黨浅羽毛利家 本他浅羽 四方里根井と出何れも武蔵の任人ありハ麻生  
とけり此麻布の事なりと政事要略に曰定諸國例進地子雜物  
更 武藏國調布 九百七十六編 細貫越古張とけり相傳云此福  
寺の以信古麻布とけり一ハ麻布名山と云る或略して麻布山と云  
つより此説信用なるは江戸砂子と云阿左布七村と云竜土権國

内  
卷  
七  
下



谷町 市多橋町 六本木上の町 雑色 是等何れも下の小名ありと云

稲荷神社 俗久困 稲荷云 谷町誌云 別角 三宮院 派

岸照山林昌寺 南社舊地を湯池あり 是より神木の榎をとりて

江戸丸子と云

御草笥町 谷町より南郊坂の方へ引不

三屋谷

谷町の先を云三屋谷といひは三屋谷と云より 昔より 江戸丸子ありと云ハなり 江戸丸子あり

谷町

木下肥州侯屋敷渡の谷也 再板 江戸丸子昔は江戸風俗を遊女何  
りしと云

稲荷町 市多橋町

市多橋町より江戸丸子と云 又江戸丸子と云不動院の稲荷町  
多しと云ふ人ありと云

市多橋町 下の名主の名之黒沢市多橋と云す

龜前坊谷 口道上移家中多ありと云

崇源院殿薨御の時御火葬の龜前堂建てし之を今も其地  
寺末よりと云此に何れを御火葬と云ふ

貞雄強しと云此を云

台徳公乃御臺 崇源院殿御火葬の龜前堂建てし

ありと云ふと云遠くへ一歩の御火葬の旧地を今も其地

六本木光明山深廣寺の境内と垣結ひ廻しと云御火葬乃

内  
外

内  
外



跡ありとて敬いあり、南幸傳りもゆ白之既、北書ゆ、源廣吉  
のゆふけを記して、伊次塚の碑ありとあり、さうさう、六本木  
下、伊次塚在りて、遠小隔り、かきん坊谷、下、伊次塚、多々の  
立、多き謂ふ、江戸、伊次子、曰、想、麻子、子、誤、ま、ハ、終、る、ぬ、べ、

紅葉を友、市橋町、伊藤、左、源、次、殿、を、友、と、云、ふ、

たゞこれ、曰、相、馬、取、屋、敷、の、方、り、り、

幸國谷、曰、下、

多唐飯、長飯の西書、裏返り、六本木、一、本、松、の、定、り、り、

江戸、伊次子、續、篇、云、飯、の、上、ふ、多、唐、丹、州、炭、を、友、何、り、先、祖、考、方、の  
飯、孝、其、の、以、相、飲、の、ゆ、き、伊、藤、本、取、の、を、友、と、云、ふ、

云、麻、布、氷、川、明、神、む、う、一、方、社、此、時、は、お、ま、二、の、多、唐、飯、の、名、  
ありと云、三、の、多、唐、飯、を、友、と、云、ふ、一、と、あり、亦、云、多、唐、飯、を、友、と、云、ふ、  
住、の、人、の、名、と、云、へ、り、

長飯、原次、高、稻、荷、の、方、り、り、

江戸、伊次子、云、太、田、原、家、の、や、し、き、の、飯、之、麻、布、す、り、芝、筋、へ、り、ふ、と、云、  
飯、の、名、付、り、り、と、云、ふ、或、ハ、云、住、居、の、人、の、氏、あり、と、云、ふ、

世、継、稻、荷、社、長、飯、右、側、根、津、神、主、伊、次、左、門、持、

石、階、之、き、が、俗、に、高、稻、荷、と、云、ふ、

貞、雄、云、北、不、支、甲、府、の、伊、次、旧、跡、なり、と、再、板、江、戸、伊、次、子、と、云、ふ、  
ハ、誤、り、甲、府、の、伊、次、ま、ハ、稻、荷、の、後、り、り、今、の、稻、荷、の、地、と、







今ある下の断を宮下と申す。と云ふは北を居あり  
不々場の是を聞き一なる居候と名付し。決きり。水  
川の神の多居ぬんと書し。恐ふくと申遠あり。

鳥居殿橋 宮下の小溝の石橋也。坂下と云

坂下 坂下なる居家の館あり。以掛せあり。移成下

芋洗坂 日ヶ窪より六本坂と云

坂下 稲荷社あり。麻布氷川の持。毎年秋近を芋を馬を運  
いぬ。稲荷寺あり。日毎に市あり。と云ふ名付り。と云  
砂子より云

朝日稲荷社 日ヶ窪真言真福寺末別当 龍馬院

日ヶ窪稲荷と云明和の以より朝日稲荷と歎ふ所あり

六本木 日ヶ窪の少北の方上古大木の松六本ありと云

温鈍坂 三本木より日ヶ窪にあり。芋洗坂の中。右側を去の意

山伏塚 阿部屋の屋敷のうらふ所

往古此辺を分海なるより大木の松ありと云ふ所あり

椋田町 一名百姓町 六本木の西

むろし清入國の時内椋田の百姓と云ふ。代地賜り百姓の町造り  
より百姓町と云ふ。江戸砂子より或説に云椋田長考の布名植  
田氏名主箕輪十左衛門山田某の三人を甲州の浪人あり。武州椋田より  
住居より椋田町に代地を賜り所引移り。と云。皆芋分のものあり



霞山稻荷社

板田町

別当

天台上新末

霞山觀明院

むうハ五女ケ愛ふ事ヲ板田引地ノ以テ示シテ稻荷ノ一ノ縁起云々  
 稻ノ國ノ任人濃谷庄司重國ノ羊刺ノ東濫ノ云治承五年十月下旬  
 板野公稻場曆院ノ事免稻毛ノ以テ出陣時々ノ事ハ野狐傳ノ  
 事ハ走リ出板野公矢ヲ放チ事千葉四郎胤信ノ債ハ甚山丹三供在  
 一曰時小矢ヲ放チ丹三ノ矢是テ何ノ次ノ日ナリ麻布ノ以テ狩リ  
 事ナシテ山ノ林ノ事ハ多ク小獸ノ穴アリ鏡狩リ事ナシト草紙集ニ運不  
 事ノ事人俄ニ狂乱シ神ノ告アリ事ナリ板野是レ以テ今ノ時  
 稻毒流ヲ留止アリト云々山ノ事ヲ述テ稻荷方時神ト云々此ノ後大  
 將泉天下ヲ治スルハ諸國小守護ヲ至テ庄園ノ地以テ之ノ事ナリ

之隅田川隈ノ雲山ノゆとト云々要害ヲ據ル云々ケタノ名付江ノ守

重長是ヲ以テ往還ヲ改ム時ト云々新田武部大輝義國

ノ守本守時丈七ノ也タキ稻尾天ノ像ヲ秩父重康内陣ニ安設ス事ナリ

事以謙倉ノ獄神武貴ノ性注侶義慶ノ事子觀明房秀孝ト云々

預ノ像アリ傳ノ重國在謙倉ノ時是ト云々我々雲山ノ事ハ以テ稻荷ノ

別當職トシテ觀明院ト号シテ以テ傳ハ州江ノ事ナリ春日ノ作長三ノ天

一寸此觀寺ノ像ヲ傳テ是レ神ヲ義ノ守本守時ト云々異人是ト告ク則

稲倉ノ本地仏ト云々文治五年板野公行達泰衡退治ノ時時立於寺

今ノ板田村ニ百七十石ノ所ニ時宗附所依田記ニ板本ヲ植テ於世人

板田ト云文明年中太田道灌南社再興ノ事ト云々板田湯池ノ意

稲荷



一苗社を移り寛永元年少も亦麻布へ遷座し奉りしと云ふ山根田  
此亦小遷座中はまやより山根田の稲倉と号し亦を根田所と改  
むと云ふ

一本松 一名冠の松

江戸秋子云天享二年六孫五經基徳所平相門の銘不入多し路の時

龍川を越え乃川なり 龍川を築橋 此亦小見りぬい民家子刻者何の事か賤粟

飯と柏の葉小盛りて持て持りぬけの目装束を麻の切り衣小盛りぬけの

袋糸を掛糸ぬけの冠の松と云ふと云々の民屋へ移りて精舎と成親

玉院と号し之今渋谷八幡東福寺の本号是又小野の皇孫也云松

と云説り何りと云ふ

六孫王孫の玉孫也おもはれ上りて其武威も亦

人のいりて麻の袴衣是の事有る也古を云ふ後世の関持乃

説之亦冠の松を一時小冠と云意を二の辺第一の本を云

亦冠柳と云ふも亦松小位授ふ事ありと云ふ冠位を授ふ本

栗飯澤 曰彼の栗の飯をまらさしと云

相生坂 一本松の事栗飯沢と云ふと江戸秋子存板子あり

水川社 麻布総誌守 別苗志云 眞福寺末 徳樂寺

苗子の産古神の祭祀九月十七日存板江戸秋子云文明年中古田

道灌武州一古大宮の水川の神代勸誘とあり苗社舊地ハ麻布



切通ト云々増上寺退隱の地と云々 社地二千坪の余なりト云一  
本松苗社の神木ト云一本松の流を色々何れとも彼松の注連を  
往古より苗社別苗より降り来り是れ神あり神苗社の神木ト云  
原よりと云々

赤廣稲荷

麻布坂下町の惣守

神主中村日向守

再板江戸坂子云々長年中苗草創の流古之神木柳一本有り枝  
葉繁く梢大く廣く来り是れ是れ廟なりと云々世人未廣の本と云  
云々と云々神号の極小なり

竹町稲荷

日下

別苗

龍王院

児稲荷

麻布六町町

仙臺坂

松平陸奥守殿下屋敷の地

麻布寺殿跡

富士見稲荷麻布寺殿跡より上の山の上は不よう不卜眺望不斜

より續江戸坂子云々

再板江戸坂子云々元祿の頃麻布寺殿と云々武士を去る此地眺望  
すべしなり故に富士見寺殿とも云々ト云々此地説は遠く江戸  
殿地寺殿ありト云々上古の子と云々ト云々寛永年中延宝年中の圖も  
此地に菜園と云々依て其側の橋も寺菜園橋と云々ト云々天和三年癸  
十二月十九日土屋相模守政直下屋敷相模と云々ト云々其の云々子孫を継  
て去る家以下屋敷と云々ト云々波の橋も相模殿と云々ト云々亦古圖云々



考ふふ小正園ありてありしを土屋ある地りさうとてうの正菜園  
を白山の物うるとして江戸秋子正殿を建らうとて小正園を  
白山へ移さうと書しを誤りありし

小町社 南郊候なるかの内小町の珠樹を移す

按ふ小町の事むりし説きふある珠書考曰小町と云ふ

禁中宮女居局の名あり藤壺より西の方小町とあり小町小町

子取の事うけいさうと書ふ事あり何れ小町の知りし

珠書考ト云書を甚しきゆ書あり一向ありたは物ありし

禁中馬小町と云所あり曾てありし小町を召名一人あり

何れあり勿論之是を只土俗の云傳なりし

廣尾

江戸秋子子平尾とゆふ非之平尾を松橋より廣尾ありてありて  
也昔麻布御殿地近きありし可成遠き地名も尾と書き  
とありて書きたるあり

稻荷神社 江戸 千代院持

連理の楓ありしを移し又根と粟の根より一文

字に符合あるありしを移しこれ前連理あり

十番 新橋曲り目の馬場あり

元ハ芝西應寺町の趾之性古き馬所を浅草芝とて浅草を移す

内とて不也南郊了の市場之芝を所守殿所用地を揚りて此不也

内務省



代地正のふと北の仙臺の市場あり正月より三月の内三度市  
所初見を二日三日と云々市馬工所七人有り福田河谷若成矢  
郊等七人有り

日向橋

彰橋ふま麻布より小舟あり

日向坂

三思のふ坂

毛利日向の坂ありふも橋と坂の名と云々

相模橋

一名時菜園む

白銀新堀子惣々芝時菜園なりと天和三癸亥年十二月十九日  
相模の坂下なるあり自然と相模橋と名なり例なり時菜  
園あり相模坂と云ひ

多田権現社

難色村中野宝仙寺末如意山宝福寺持

非麻布難式大宮近

氷川神社

宝仙寺末正藏院持

非麻布難式大宮近

寺院兼寺中之神社

麻布山善福寺

西本願寺末寺領七石難色村

開山了海上人親鸞上人の弟子

本尊弥陀

惠心作

江戸牧子云徳古き南古天台宗寺開山了海上人と凡四百年余  
の古跡あり云親鸞上人常陸の配あり時留寺に列名あり



り浄土法門の上より海信一のい上人の才子とあり一向専念の行者  
となり志宗の乃瑞子孫とあり

藏王権現

一名麻布権現と云本堂の南より海堂と云

開山了海上人迂化の期よりして誓ひぬを我滅しと云  
永く苗所の元生を思しと云七月十日寂滅毎年苗所  
初冬に苗山を龜子山と云龜の形ふゆるとあり

杖鬼脚

本堂のたの方より

親鸞上人の杖へ移り苗所よりある時法盛ふと云杖  
葉をむきと云と度ふささおくれしもの今大木とあり  
去りうり乳あり婦人の木を以て療まれば奇特ありと云樹をきる

る影まじり杖葉いとむよと云と云事と云はしむ今に  
の師徒を以て乳ありその孫ありと云江户砂子と云

麻島清水

惣門と中門との間より瀧水と云礼あり

江户砂子と云此水を祖師親鸞上人麻島大御神より乞法あり  
おのぬありと云麻島ふ七井ありと云と云乾井と云と云

うあり柳

古木の杖を名木と云瀧の水の傍より

相傳云性古法法大師廻國の時杉の楊枝伐りしゆふ此杉七株  
子まうれて大木とありと云白き麻布の旗の如くありと云  
りりり因り苗所を麻布と云麻布山乃略説ありと云  
くをありと云



阿さふハ麻布際子何れに辺むりハ山畠を麻を化り  
 一放麻田をアサフとよめり日本産化も豆田マツノ粟田  
 アハフと訓ありぬ一此外も蓮生ヨモギフ又浅茅生  
 マサケフの類不同シ武苑國を調布玉川とさらして  
 貢物ありなり一放り辺麻田あり一万葉集ありなり  
 延喜式ありと記せり

- 善通寺 善正寺 金藏寺 福泉寺
- 塔頭 専光寺 西福寺 淨廣寺 真福寺
- 稱名寺 西重寺 善興寺 淨泉寺
- 臺雲寺 洞家 黄蘗 傳正寺 雜式町

開山 原久

一松山長傳寺 淨土宗 智恩院末 一本松際

開山 心誓上人

實相院 禪宗 因覺寺末 雜式町

開山 原久

法隆山千藏寺 天台宗 山五末 宮村町

開山 同上

今井山光隆寺 日蓮宗 光長寺末 日尔

開山 同上

明見山本光寺 日 本成寺末 日尔



開山 同上

法久山安金寺

曰

本寺末

曰尔

開山 同上

祥雲山竜沃寺

禅宗

青龍寺末

曰尔

開山 同上

正東山本善寺

日蓮宗

本寺末

曰尔

開山本善院日東聖人

福壽大黒安金

西高山祇念寺

浄土宗

智恩院末

新町

開山 原欠

清涼山性心院

曰

曰

曰尔

開山 原欠

松宮山専心寺

曰

増上寺末

曰尔

開山 同上

光明山遍照寺

曰

麻布教善寺末

曰尔

開山誠蓮社證登上人

松栄山妙徑寺

日蓮宗

身延末

樓田町

開山 同上

日登山清徳寺

曰

小湊末

日ヶ窪

開山最上院日仕聖人

高林山法典寺

曰

曰

曰尔



開山利生院日幸上人

洞雲山龍興寺

祥宗

青龍寺

開山 原久

光明山深廣寺

淨土宗

増上寺

六本木

開山者上人

寛永六己巳年起立

台徳公之清臺

崇源院殿清火葬之地也清灰塚の碑あり

曆六丙子十月三日火災燄滅し今を以て之の跡あり

寛永記曰

寛永三年九月十七日御臺所方御葬禮武州麻布野外ニ

建火屋其四方へ町四方構假屋結廻於虎落虎口ヲ閉警固ハ

不申及其四方藪里三里取廻以弓鉄炮鎗如墳固テ下略之

按ふは清長屋の跡と云ふは増上寺より於寛永六年此深廣

寺代起立し

遍照山光專寺

淨土宗

増上寺

六本木

開山者上人

寛永六年己巳起立

長慶山教善寺

曰

曰

曰

開山 原久

壽光山淨因寺

淨土宗

西本願寺

曰

開山 同上

情性山善覺寺

淨土宗

増上寺

曰



開山生善上人志至和尚

法臺山大泉寺

禪宗

甲州 大泉寺末

口末

開山 原久

微妙山真性寺

日蓮宗

池上末

口末

開山 全

廣榮山法雲寺

日蓮宗

國前寺末

口末

開山 全

見生山崇嚴寺

淨土宗

智恩院末 口末

開山 全

無量山園林寺

淨土宗

口末

開基釋乘念上人

原久

永昌寺

谷町

開山 原久

妙俊寺

口末

開山 全

雲岳山光照寺

淨土真宗

西本願寺末

長坂

開基 全

原久

大長寺

日蓮宗

越後村田 本妙寺末  
个本妙法寺

口末

開山 全

日通山妙善寺

日蓮宗

小湊末

口末



開山 全

原久

龍譚寺

上州黒滝

不動寺末

本村町

開山 全

日栄山妙祝寺

日蓮宗

小湊末

梅田町

開山 全

本榎山長幸寺

日

日

日所宗泉寺白

開山 全

妙證山乘泉寺

日

京

妙蓮寺末

日所

開山 全

原久

大法寺

日所

開山 全

一向山三光院専称寺

浄土宗

智恩院末 日所

開山澄譽傳郭上人

三光院清心比丘尼開基

朝日觀音安置

江戸歌子云本寺と長老丸の叢より出現作云れさるよー三光院比丘尼安  
基の像之北三光院と云と織田信長の婦筒井伴賀吉順慶の婦之尼小町  
増上寺十六世深譽上人の才子下りといふ

瑠璃山正光院

真言宗

寺野山

正智院末

日所

開山行譽善作上人

寛永六年己巳起立

子安薬師

真心信都作

人皇六十六代一條院河降院の  
寺祈佛也



源廣山正信寺 曰 曰 曰

開山學蓮社當營上人存茂順故和尚

南寺の境内小毘沙門堂例あり明和の比石堂地形あり時清水涌あり  
仍く彼水を病悩の病人に巧之る灵験あり小より加持の井と名はる

龍王山長徳寺 禪宗 長谷寺末 龍土

開山原文

白光山長昌寺 曰 龍徳寺末 曰

開山全

原文 長泉寺 天台宗 上野末 曰

開山全

八幡社 神明社

旭照山立泉寺 浄土真宗 西本願寺末 曰

開基全

黄蓮山大圖寺 曰 曰 曰

開基全

信樂山教雲寺兼蓮

開山全

小凉山法菴寺 曰 曰 曰

開山全

常任山長耀寺兼養 日蓮宗 身延末 日ヶ窪入口

寺



開山智仙院日蓮聖人

仙境山春桃院

禅宗

如心寺末

仙臺坂

開山

原久

寺中自適庵

萬徳山妙行寺

津土真宗

西平野寺末

口末

開基

全

延寿院

古寺末

口末

津菜園路  
近不

開山

醫王山東福寺

天台宗

上野末

口末

津菜園路

江戸歎云苗寺七佛兼師と傳教大師の他の一跡有り本山第二世  
慈覚大師佛法弘通の二女関東よりゆりて口末に本寺を築きて下りて之

平作右道灌源く信一城中ふあめ並れ一之平作神田子福一

又後崇徳院標御建立有り東叡山の苗有り廣少路子福之又貞享

元年その地子福さる一之

江戸惣麻子名不大全云三孫五経基守本寺傳教大師の作永承

年中振義朝臣豫倉子福一之まじく崇教まじく長祿年中

右田道灌武州河越乃城子福一文昭八年道灌江津の平川子並

ゆりて後崇長九年平河より神田北邊へ移りて神田某師と云

後貞享年中より上野今廣小路のふりて其後今の地より法

崇長五年神祈禱の巻物を献てより今正五九月神祈禱の

...

寺



此礼并供物を献はる子恒例あり江府舊跡の随ふして尤清建立  
地あり上古より仙波在り多院在りあり一々慈眼方沙の時小東嶽山末  
小附ふれ其趣意を述ふ平大原吉孝の記南山小ありと云

原文

西福寺 淨土真宗 東中野古末 清善園新堀端

開奉

原文

佛陀山天真寺 禅宗 大徳寺末 同本村所

開山

全

龍虎山園沃寺 曰 約 大園寺末 同本村所

開山附山崇徳大和尚

日東山曹溪寺 曰 妙心寺末 曰不

開山舌口和尚 寺中 慈眼庵 碧芦軒  
其門あざせりかうと云

慈眼山光林寺 曰 曰 新堀端 右後堀

開山盤珪和尚 南寺ありと云 市三橋所あり

多聞山天現寺 曰 大徳寺末 清徳跡新堀端

開山

原文

毘沙門聖天孫の像之清丈三尺五分補丸本化り聖徳太子の作多田  
満仲公の持尊孝長の以清信仰在り阿部攝政公像なり其年其後  
亦仙石因州侯小あり故在り南寺小納り

長昌山龍隱寺 曰 妙心寺末越生龍隱寺宿寺 同本村所 坂中東



開山無極和尚 關東僧祖三ヶ寺の内寺以百石

増上寺前大僧正退院之地 一本松切通

江戸砂子、白金目黒の郊にあり、誤之大湊と何々、増上寺下屋敷之

原欠 賢宗寺 一本松 祐正寺 之下

開山 原欠

松本山徳正寺 浄土志宗 善福寺系 一本松

開山 全

原欠 浄慶寺 曰 曰 原欠

開山 全

福泉寺 曰 曰 雜式

開基 全

明称寺 曰 东中野寺系 相換楊葱

開基 全

浄泉寺 曰 曰 本村町

開基 全

西光寺 曰 西中野寺系 谷町

開基 全

徳養寺 曰 曰 本村中町

開基 全

長玄寺 曰 曰 原欠



開基 全

原欠

長安寺

浄土宗

原欠

開山 舊門和尚

全

東福寺

天台宗

上野末

谷町

薬師堂

昌永山湖雲寺

禅宗

青松寺末

市多橋町

開山

原欠

龍沃寺

口上州黒瀧不動寺末

本村町

開山 全

本妙寺

白銀

開山 全

吉祥寺

本村

開山 全

源心寺

町

開山 全

栄久山大法寺

日蓮宗 小湊末

一本松下

開山 慈眼院日利聖人

大黒天

三世日亮聖人の時より安土其族をく信仰の輩多し

日亮八享保十六年辛未六月十九日寂八十四歳

原欠

大雲寺



開山全

淨因寺 淨土真宗 西本願寺末 麻布六本木

開基全

圓林寺 口 東本願寺末 早

開卷全

白銀

相傳云性古此子白銀長者と云ふ所の所り代に富貴に任はれ  
子富と白銀と云ふ一糸分限帳に白銀村と有り江戸碓子、白銀村、  
九八百石ありの店ありと云ふ

氷川神社 天台宗別當 山王権經院系 慈守山 蓮光報恩寺

白銀村の惣務寺之祭礼九月十七日祭神武藏大宮、同一、永涼雜記

白銀氷川を在系郡あり此神に素盞雄等ありて出雲國大蛇を退

治しゆ、則出雲國 川上名居しゆ、氷川大明神と崇め祭

了、後景行天皇此神宮、日本武尊則武州大宮子あり、此を以て福

一邊ありしと云ふ

本地兼師如東

踏智森神明宮 別當 白旗山報恩寺兼當

此辺に古く踏智森と云神本大槌有り、祭礼五月八日社傳に云人皇七十

代後冷泉院湧字源於義武所征伐凱旋の時南ふり古日本武尊



武具伐納をいし例より白旗を此の納免なりと神の勅語  
山成白旗山と名付しと云

雷電宮

神應山報恩寺持

社傳云人皇七十二代白河院の時武州疫癘流行の時土民氷川神  
被接幣を奉りて氷川神祀に雷電神宮伐納之と因て此  
子雷電社伐納法を此神と<sup>新</sup>刺<sup>遇</sup>突智の分身なりと大悲經を凡  
ハ疫癘静まりて乃趣よく叶て依て此地伐納千手觀音と云ふ  
神應山と云ふと云々求涼雜記

高野山在當二ヶ寺

白浪臺

本堂以法大師尊像丹生之時西大光明神

高野山法守故勅語

梅ヶ葉全 白金氷川社側 常梅 庭梅 花書

梅ヶ葉為の地内此梅何の白梅のり遊り上人の白梅和云何

麻布白りてと云ふ名有り香あり梅何の白梅の色香鮮明ありて

また梅乃實と云ふ梅小三のりて<sup>歳</sup>を去之傳り此人等をと

二梅と云ふと云ふ予を中より秋より赤の年の誕生あり此を不祿者せし

梅乃何のいふと云ふ此名を告傳り此を不祿者の書客の笑いを

此の女は名を此表せ伐<sup>此</sup>忘是傳りてと云ふとき和云伐一首と云ふ

遊行五十二世陀阿海

此花乃色を白浪名不云くちと云ふと云ふて云の梅

内 秀 省



宮下稻荷社

ソノ一と此名居多石坂の上より早道行くと多石ハ今の多石のり早道  
至後多石坂の頂を降りしころ時宮下を今の地不移也

豊澤 上中下三ヶ村行

上葉ヶ原 多石の邊

今里 今早道移るといふ

三多石より白根臺所四丁目へ出ると間へ早道端を上り坂の下り坂の  
男より日吉坂へ出る細谷の坂のあり

或人の曰サシコ坂ハ昔江法大師の三法ヲ埋しふ松を植ふといふ

三法ハ松坂の南少行亦北下ハ柳行極本行

六軒茶屋 白根臺所上町の續き

昔の一此茶屋今六軒行今も町を去百軒ありといふ之も古事此名を  
よぶより江戸政おし出

永峯

六軒茶屋續き之永峯山寺神院あり

原

白根臺所八丁目の邊云昔といふありといふ今地名と相違り

大小屋

白根松平殿が屋下屋敷と行違を相違下屋敷の間乃名今小正路行

千代ヶ崎 永峰の先







觀音堂

紫雲山瑞聖寺

禪宗

黄蘗

日四丁目

開山本菴和尚

寛文中起立あり江戸破ふり多く江戸惣庶

子名不大全あり寛永中より毎年七月十日布施餓鬼あり

大光山重秀寺

日

如心寺

日永氷川の上ナリ

開山

法正山妙玄院

日

日永

日永猿町

開山

萬葉山淨喜院正源寺

淨古宗増上寺 日永二丁目

開山昌尊上人萬葉和尚

本寺三尊院

江戸破ふり云前寺什宝日本六十余州各圖納經所乃神佛の形群をふ

寺六十六休座像谷四尺子彫刻一田園以脚の唱何子備ふ

正連寺

浄土古宗 西平教寺

日永三丁目

開基

恩教寺

日宗

東平教寺

日永三丁目

開基

称名山西光寺

淨古宗

智慧院

白根三詰河の邊

開山

宝蓮山光取寺

日宗

増上寺

日永

開山

日蛇

并天



松宮山專心寺

口宗

口宗

口宗 早乃傳毛利家  
松宮山上畠中

開山 全

神明社

三銘松小可

大雄山興祥寺

口宗

口宗 妙心寺派在祥寺末

開山 全

菊寺寺上杉家菩提不也女儀の分ハ此寺小華於家督の代ハ淺多新

多越南藏院不華

原欠

寺野寺

白浪臺町寺丁目

光林寺

口宗

智光山立行寺

口宗

口宗 京平祥寺末

口宗 重秀寺ノ  
ナラビ

開山日通聖人

寺中通應院

寺立坊

普明山西照寺

口宗

口宗 加賀國  
徳翁寺末

白浪臺町一丁目地獄  
谷上日吉坂下

開山 原欠

寂上山覺林寺

口宗

口宗 小湊末

口宗 西照寺ムコフ

開山 全

誠菴山妙圓寺

口宗

口宗 身延末

口宗 十一町目谷

開山 全

常徳山玄照寺

口宗

口宗

口宗 本村本妙寺近末

開山 全

金峰山本妙寺

口宗

口宗

口宗 西光寺後



開山

冬、嶺山松秀寺

時宗

蘇澤末

白銀

中興開山遊行五十世快存上人

南寺を元武州多摩郡高井戸より常光寺と云遊行上人宿

寺の先室曆二申年南寺より引より明和二年永松秀寺とあり

目黒 大崎

目黒を姓古より名ありて小条分限帳より永福元亀の頃の繪巻面  
にも見ゆり上中下三ヶ村ありたり

大鳥神社

別當天台龍泉寺末松輝山生蓮寺大聖院

求涼雜記云祭神日本武尊大同二年丁未移座上中下目黒村の跡より或人

云目黒不動を日本武尊といひ此社の誤りなりといふ

神社啓蒙曰大鳥神社在和泉園大鳥郡一宮祀曰日本武尊之下部兼照説

曰昔有白鳳飛來止是處日本武尊所化之故名大鳥とあり南寺も泉州

大鳥神社を勧誘するといふ

見よりの阿弥陀

可也

洛陽東山聖衆來迎山禪林寺の阿弥陀如来の願より尊容也是八國

融院の清字永觀律師行道の時佛見りりひく永觀と召せり

よ一菊岡米山翁の俗語志より南寺の本尊も此を写しりりや折

寺傳を尋ぬり本像の息を動りりり慈恩傳より志より佛家小



此説多し

法護神

祥宗

別南

栖鳳菴

大鳥社のさき五反畠といふ所の少し先きあり不動の裏の方世ふた多  
の金比羅といふ享保の頃より法護あり

八幡神社

上目黒

別南天台宗護國寺末壽福院

三寶場

土器塚

武家名数小上目黒ありといふ証に江戸破子三軒築金あり

雑子宮

大崎

別南天台宗白雜山宝塔寺

江戸破子云芝長の頃清徳の時此處に雑子宮ありといふ社の名を尋ねしに  
いふ所乃神の社名なりといふ言上は雑子の宮ありといふ雑子宮とやいふ

上意ありといふ傳ふ雑子宮ありといふ

三嶋神社

日永

宝塔寺持

根神社

日永

日

忍田稲荷社

猿町

神主

山口主膳

或説曰苗形白狐玉あり是南不川稲荷の社地なりといふに有馬あり  
納らむといふ

桐ヶ谷

浄土宗火葬場あり

江戸より二里

蛇ヶ窪

上下村ありあり石程のふ

江戸より二里半

神明宮

上蛇ヶ窪

長遠寺持

氷川神社

桐ヶ谷

別南山五束 安樂寺持



八幡社

日

日

日

寺院并寺中之神社

目黒不動

天台宗

上野末

泰蔵山竜泉寺

開山慈覚大師

本寺慈覚化

江戸破子云南山を性吉日中武を怨之神号あり只土民の稱して荒  
 人神といふは其の志の類ふ大師本玉に性困より叡山へ移りぬり  
 此のやうに農民の類いへ云南山の荒神を元日本武を以て神神を彫刻  
 し神彫の稱ありと云時ふ大師不動の像を造り肉師の納免たりとあり  
 元和三年乃其後改乃其あり大和よりて當條跡に焼立を其像烟の  
 中より飛りぬ瀧水より下立ありとあり

貞雄云不動乃其の元和三年冬焼乃其後寛永元年に再建之立

明三年中より再建之前撰集子見たり又寛永十年正月十

日にも再建作ありとあり

独鈷の瀧 大師独鈷を以て地を穿ちて少く流水涌出する因に独鈷

の瀧といふ江戸名瀧あり

宿多居松 又名櫻掛松 勾松といふ石壇あり

寛永改此地におきて寺宿多居松ありし時宿多居松を雲井より別当  
 榮子傳て祈念ありし時宿多居松の松の梢をとり別当を掛  
 せりし時宿多居松の甚く感ありとあり宿多居松といふ  
 寺ありし江戸破子あり

宿多居松



札所観音

坂下 常不動

曰

三佛堂 曰

疱瘡神

曰 六所明神

曰

濡佛 曰

勢至堂

曰 瀧魔堂

曰

結神 女坂下

清供所

惠比次  
大黒天

坂上 水神

坂上

大行奉経院 坂上

聖徳太子

曰 淡島社

曰

遮神堂 曰

地藏堂

曰 改竈大日

曰

経藏 曰

鬼子母神

曰 是亦皆不動の境内なり

再板江戸吹子云此不動と日本武尊留すの権跡よりいふ所凶徒等たむ  
かりて云此山は麻多一掃して遊いぬると云別尊移す由り小凶徒亦枯移す  
火を放ちて尊を焼んとす時子尊天の村々の所片のきを以ていふとせよ移

犬の骨を切て散りてあり燐子白草と雜り少少火燐即ち凶徒の方吹

悉く亡すまじり此理を天に告げその理と名付所祀と名雜り祀と改め

せりよとて其所の所よりありてありてありてありてありてありてありてあり

子立りよ不偏不勅の形あり日本武尊の神所と名ありよとて山不

勅不多居るも此所又火を飼物とすも此由緒とす

苗不産

餅花

粟餅

川口至鉛

清福餅

慈覚大師と下野國都賀郡の産父と壬生氏の廣智の父子禪を

圖仁と云大同三年十の月也叡山大師は其子の所坊廣智と云

叡山は傳教の弟とあり

天和五年入唐曰十四年保躬 貞觀六年二月十六日入寮于時七十一

内務省



畢云亦云菊山正五九月廿六日昼夜多信影一又十月十日蝶拂子て  
開帳所の取立夜より多信群をあり

蛸薬師 不老山薬師寺成就院 竜泉寺末口宗

本寺慈覚大師作

此平寺に初形ありありの蛸を断物なり繪了り蛸を画く事江戶砂子云  
東郊蛸薬師ハ蛸を云高人のありて毎小光時何れを求り確  
の石子茅所の像ありハ蛸をの茅所と不厚なりと云の以りて蛸  
師と唱ふ此茅所子准しと云ふ事

飯綱権現社 乃く其蹟あり境角に安坐

卧龍山能仁寺 安善院 天台 竜泉寺末口宗

本寺 涅槃像 空卷上人作 觀月橋 額廻廊あり

俗諺に苗子を寝釈迦と云

松樹山茂林寺 明王院 天台上野末 行人坂

開山紫蓮法師 常念佛堂

并賤天社 弘法大師作 江州生霊島の神像の写し

子安觀音 口作 長州檀浦より出現

子安石 觀音の坐子依て位所依之部 三塚村より仙順法師  
感得ありありあり

夕日山 本堂後の山菊山五葉の名あり

行人坂 寛永の頃湯殿山石志地より名付水巻あり

松林山大園寺 天台宗 行人山浅草正徳院末口宗



大日堂

寛永乃氏被修人々修葺草庵の終り

明和九年辰二月廿九日此寺より出火一々忽大火となり此火松陽千住子  
五の是明徳の寺の大火なり此寺堂候悉く焼亡して安永の今子五の寺  
存連の故法あり

目黒山

不韋の裏門を出た方より芝山ありあり

権之助坂

行人坂の山松平三郎殿前より下りて  
下りて松平の坂よりある御所

日出山威徳寺

禅宗瑞聖寺末

目黒

開山瑞聖寺十一世祖春和尚

享保年中起立

園應山長徳寺

日宗妙心寺末

日宗所用候所

開山

京久

明顯山祐天寺善久院 淨土宗

中目黒

開山祐天和尚

享保四年二世祐海和尚起立

祐天和尚傳影 三輪利濫作茶毘の中子残り開山の古有開山の

廟不在乃方林の内あり

京久

正覚寺

日蓮宗

身延末

日宗

開山

京久

安樂寺

山王門徒

相谷

開山

靈雲山蟠竜寺

淨土宗

増上寺末

目黒もみぢの

開山

京久



原欠

雲海寺

口宗

長松寺末

相谷

開山全

安養寺

天台宗

流泉寺末

口宗

開山全

東光寺

山王門後

下蛇宮

開山全

長遠寺

真言宗

光養院末

上蛇宮

開山全

金花山清岸寺

淨土宗

増上寺末

目黒

開山全

長命山徳藏寺

天台宗

山王末

大崎村

乃人坂森野村  
西寺分寺乃丁丸

開山全

境内の山々建ふは六十六ヶ箇一書に彫付因分枝一々建ふ近世

六十六部の建一々或人の証あり

原欠

光雲寺

約込

長壽寺末

上大崎村六軒寺末

開山全

永峯山高福院

天台宗

無量壽院末

永峰町

開山全

増上寺下瓦末

大崎村

増上寺退院の地ハ一本松之是之下瓦末之白根産町の地藏横町より

寺



又後柳と云写すも仍之地中ハ八幡ありと云

八幡尊像 雲州城主尾子伊豫守經久城内誌也

曰八幡本地 阿彌陀 定朝作

治安元年勅命を依り造立せし後月臨殿下兼実公家有如く之  
尾子經久の移す八幡寺本地仍とあり

八幡の縁記本記佛縁記尾子氏系譜等あり江戸版子子委之記在

妙建山本立寺 日蓮宗 池上末 大深

開山佛乘院日愷聖人

大崎山壽昌寺 祥宗 妙心寺末 日本豆寺隣

開山雲居祥師

正福山了真寺

長州長府 功山寺末

日壽昌寺臨向

開山大旗儀徽和尚

碑文谷

江戸版子云性古者玄法師と云人此より一間の卒都婆に碑の文を書き  
埋しより此を碑文谷と云

妙光山法華寺 天台宗上野末 寺根十九石 碑文谷

開山日源聖人 仁王安阿弥作款迦寺 飛驒内匠速の寺と云

之を法花の道場之元祿の以天台宗より江戸版子  
出

開山



新編江戸志卷之八目錄

一市ヶ谷 牛小屋

長延寺谷

加賀屋表

一大久保 百人町

若松町

一四ッ谷 藪ヶ橋  
大木戸

寺町 千駄ヶ谷

恩原  
追分

千日谷  
内藤宿

一中野

一代々木

一武藏野

町  
勢  
當







幸々として年々久々神祇ありて後太田道灌の所持の神体を以て南社の神祇と以後是を強く小氏何某多田満仲守護神の八幡を代へ持侍へしと享保の頃南社に於て本納をとり混へ南社を多田満仲守護神とす

江戸坂子云神祇を馬上甲冑の形神功皇后比咩神相殿文明年中左田道灌指資江城乾に於て八幡を勧誘し東円寺を立く神宮別南と山代稻嶺と号し稲為大明神姓古より此座有し故に大永年中兵乱に破壊を蒙り後茶長の以別南空源昌運力を得て造立し云

茶本稻荷社

境内多稲例あり

當山の地也

神社畧記云土俗傳曰南社、白狐ありし茶本ありて目を突く此社の舊あり正月三日茶を吞ぶと云今も此舊俗残すといふ

按て性古抄邊茶本多き事南社を記すあり此神号有故に

白鳥神社の氏子名成食を以浅草觀音の氏子雛子を社所とす此

類甚多し正月茶代禁歩に此例あり

愛敬稻荷社

別南法雲山本寺教藏院田町上

江戸坂子云元八幡別南の持之依る茶本稲為と記す事南社を記す稲為とす

左内坂

市ヶ谷浄門向南尔名至徳田左内と云於て此地の名付之

和り石

中根氏屋敷子埋樋入口

茶本



求涼雜記云左内坂より加賀屋敷へ出る間乃石移之土角今小口を合セ  
掛う石移之何水の取よりハ小児の咳乃病を治する由を傳へ土俗  
是を初々心の多しと云

甲良屋舗 左内坂の邊 棟梁甲良豊前お辰屋敷

蝦治坂 本村

武藏大塚唯久と云刀洲住居あり名と云るより江戸砂子あり

小栗坂 本村昔時舊道既小栗氏住居の地名付之

合羽坂 本村

念佛坂 谷町と云坂

古老云坂下の古高寺といふ浄土宗寺あり此坂の名と云又或説

此地坂甚危く上下り老人念佛を唱ふの名と云

牛少屋 七軒店 市ヶ谷より四谷に於て

求涼雜記云瀧本房住此處多しあり置屋と云あり

牛少屋より車をとりやとりたみ<sup>本のみ</sup>をハうれしうるん

古の本子屋を子よりと云ふよりこの自業の事持使しと云江戸坂

子云昔時此山築の以て近法石壇を引う事を撃つる事といふ一説は

上洛の時馬車の中を運ぶ一石といふ外少屋東寺入園の以て此牛小

為子牛屋をこゝに糺町辺寺とあり馬車に付多分四谷大久保に於て

作付後御四谷馬車市谷馬車門出此後右牛屋を福子おのゝ地地

住付南時之馬車町中牛屋引福子昔名主大内町といふや此儀々



一應法以味為法加之可也

長延寺谷

左内坂小谷

万昌山長延寺河邊之名

江戸破子云此地昔有池之其餘波安藤氏屋敷の内少の池今子ありとあり

淨泉寺谷

了場下市谷柳町小天谷山淨泉寺有石名付

万昌院旧地

江戸破子云市谷左内坂火消屋敷の地之久宝山万昌院其以前六当町より此所より引去る後今築土下入移り

加賀屋敷

清泰院殿時より人居住の地あり享保八年冬回祿の後系時より

了仙寺開

五段長屋

尾州炭西の方市長屋云云此涼地少移りて所為内子相叙り

河田ヶ窪

菜王寺お邊をり

南側市ヶ谷柳町  
小側市ヶ谷河田ヶ久保

正覚山月桂寺

禅宗

鎌倉園覚寺

寺所百石

紫の一本云初ハ平安寺とて市谷より二月桂院殿とて春連川

純時嫡女の菩提所之明暦元年月桂院禪尼八十八より逝去し

水より後月桂寺と号す額を金地院普濟禪師の草のよと記す

塔殿

松竹菴

卧龍菴

縮荷山東光院

志玄宗

寺所百石

加賀屋敷下

江戸破子云南寺と元真言宗之退轉して草庵と成しと元禄北黄蘗派



凌雲和尚中興寺

無量山大信院 球宝寺 淨土

本村四丁目

開山覺蓮社大谷上人洞雲和尚寛文十二年六月廿五日

弁財天社 弘法大師作 護法神

七宝山藥王寺 マシガラ谷修行寺

火焰地藏 人祖某師

如説山修行寺 日蓮宗 平賀末 鰻改谷

開山日持聖人

瑞光山道林寺 禪宗 妙心寺末 日宗

開山秀外和尚

白鳥山善慶寺 一向宗 東条 日宗

開山善慶 芳素寺中 記法寺

万昌山長延寺 禪宗曹洞宗 長年寺末 田町

開山喚英長應大和尚

清光山林泉院安養寺 淨土 智恩院末 谷町

開山必蓮社深峯上人真公和尚 天正二年甲戌起立

舊地一谷原富士見坂也今尾州市館所藩之内明曆二年三世秀峯上

人の時今此地子孫

稻荷社 苗寺誌書

万治元年正月朔日叔白老翁末



稻むもや多む... 秀峯自ら竹木を抄社にけり

覚雲山淨栄寺 淨土宗 西羽 南寺町

開山 本寺 中興開基善乘法師

惠命山林松院園満寺 志云 護持院末 袋寺町

開山重春法師

本清山長巖寺 东末 南寺町

開基春清増 系欠

久栄山蓮秀寺 玉沢末 日永

開山日表聖人

蓮老山妙典寺 双蓮寺末 日永

開山日觀上人

護念山東園寺 安養寺末 柳所

開山 本寺

稻嶺山東園寺 高野山末

開基太田資長入道道漢

口称山経音寺 淨土宗 西延寺末 市谷谷町

開山 本寺

七星山光徳院 志云 護玉寺末 柳所

開山 本寺

開山



秦國山長昌寺

原欠

南寺町

開山栄岩和尚

永昌山宗泰院

禪曹洞宗

可松院末

左内町

開山格峯泰逸大和尚

富聚山長竜寺

小札

雲相寺末

日永

開山玄室宗順大和尚

鳳仙山長泰寺

日

長奄寺末

日永

開山心巖應大和尚

龍谷山洞雲寺

日

言田

宝勝寺末

日永

開山月叔應大和尚

天長山永昌寺

日

四谷

竜昌寺末

日永

開山

原欠

四谷方二

蓮沼山惠光寺

日蓮宗

玉沢末

原所

開山

同上

牛込之分二入

寺中 栄昌院

觀理院

大乘山経王寺

日

平賀末

日永

日照山法光寺

日

越後東成寺末

本村下

開山

同上

牛込之分二入

寛永三丙寅年起立赤坂下本村取建兼徳二壬巳年四谷南寺町迄後寺末之移。



涼月寺

原久

大久保

是レ市ヶ谷北門之大久保と云レ他名ハ系家の次ハ云レ

大久保天神社

別南聖護院系極松山五大寺与大聖院

江戸丸子云小野回社之神跡ハ東常の神形と云一名東神乃

天神と云又西向天神と云銘云人皇ハ十五代後堀河院安貞二

年明惠上人勅請之大指都玄信中奥良大久保銘与多礼

六月古古云南社を来天神と称云云寛永の次南亦所廢

跡云一町南社跡ハ外破壊云云上覽あり別南を召見

金の束玉を賜ふ是故以テ南社を再興志しと云 台命あり是

今東に天神と稱云云後社壇造立云云一町以東に大寄附の方

向社壇を造多しと稱云云

大窪稻荷社

七面東の町家

別南

二学院

辨財天相殿

神社畧記曰按テ南社を七面東町屋ノ所在の社ニ并テ天と

在殿ニ祀祀云云謂并才天を附會之神道云云字賀魂神ありと

先哲の弁論詳之神系圖ノ字賀魂神相お樓高り多しと云

七面社

別南 日蓮宗

池上末

春時山宝善寺

開奉日朗上人寛文三年駿河五富士郡三沢寺より此地を移り延



宝六年身延山の七面を初く勅法を松平お後守殿母公芳心院建  
立ありと社傳あり寺中 寐照坊

朝日稲荷社 大久保四丁町坂の上

尚社を古田太夫を主入道道灌の建より一社傳あり成りあり

袖掛松 大久保七面の道ふ大寺や一寺

寛政の頃此地に作久間將監より人の宅地ありその庭より一松あり

その地細川三林社社を築れりとも此廊内成引移りて叶

いりりむあり北よりやまぬ屋敷北地大寺氏に編りて大寺を

おとしりて屋敷の屋敷は屋敷とあり明和五年三月上地より

りて諸寺の編りてあり傳り於於公權社を掛りて一寺にあり

極系ト傳り故  
宅の跡大久保破  
利場立ト傳り  
不々  
大久保の田北  
面の畦の  
小夜乃枕の  
着るさすまを  
此よりいふ  
に性ありと云  
ト傳りて一  
坊の辺に葬  
あり一の石存  
りて云傳り

神明社 大久保正算町別當 古義法 諏訪村其國寺

稲荷相殿

四丁目 四筋横町あり

福約町此先子祖屋を内なるつらぬ如く曲りて名付あり

白蓮山寺福寺 一向宗 東 七面近所

開基宗泉二世祐全三世源澄也

佛秩山寺念寺 浄土宗智恩院末大久保

開山寂譽上人

法恩寺 日蓮宗 京 双満寺末 日永

町 務 省



開山

是ハ大久保ハ抱ヤ一寺ハ四谷寺他あり

大久保山永福寺

禪宗

中込  
百昌寺末  
日永

開山桂屋和尚

玉峯山長光寺

日曹洞

中込  
宗參寺末  
日百人町

開山得可大和尚二世中奥海翁刹大和尚

此亦圓照寺後明神社の下々入末の所と云ふ

原久

金竜寺

禪宗

中野成務寺末

法竜寺

日

宗參寺末

福應山蓮光寺

日蓮宗

信品川中島  
本性寺末  
生込  
若杉所

開山惠性院日基上人  
大久保の開基也

東蘆山  
秋正寺

一向宗

日

開基安養坊了善

了飯彈正の子と云傳

道德山長壽寺

浄土宗  
増上寺末  
日永

開山

原久

佛性山戒法寺

日

日

日永

開山

原久

知足山正福寺

日

日

日永

開山

原久

選擇山本教寺

日

日

日永



開山全

極善山最上寺

曰

曰

曰

開山全

原文

善心寺

三葉坂上

観音堂

三葉の松あり

四谷

四ヶ所子谷あり之より四谷といふ事不其心甚千日谷也四ッ谷の内子  
一々茗荷谷大久保の千粒ヶ谷善山之近くして四ッ谷あり大上谷

高井戸辺四谷より一里半陽より四谷名主勘四郎と云々往古より武苑寺  
續きたる曠原よりさきより家長なりりつ子家より河ヶ橋を布を  
今保久屋より茶屋布を此四軒あり甲州往來の旅人の休所之  
然るに寺當地目之盤昌付江戸傳言町境町の代地或を糶所辺の  
寺社の代地惣地等法作付種を多の地もあり様とありぬあり四家  
の名之今ハウセテ四谷と書かぬされとも右四家の内極を保久屋ハ  
子孫今子此地にあり此所の之れもいふ所のよりくぬのより劫可部  
物語并南ふの古先ありとも隨分極長子之體言此邊を千粒ヶ谷子屬に  
小糸家田地四谷を之れ千粒ヶ谷の地名を之自江戸破子四谷と  
云々千日谷茗荷谷千粒ヶ谷大上谷の四谷何れありとも之を非勿

四谷



四谷雜談之寛永頃迄と外曲輪と云々其地多く乾中津城より西の  
方糶所の方より下、秋津生茂り野鶴臺のみ多し佳<sup>本ノマ、</sup>あ<sup>ク</sup>久の浦水  
々昔の内子人家四つありてなつてありてありて四谷と云々其の頃  
外子家流きよありて随ふ自然と書ありてありて

四谷津門

糶町十丁目ニ在り

江戸城子云此津門を介して四谷と云十一丁目十二丁目此津城より多し時代  
地を津門外より下これ三丁分ハ四谷の内子あり

四谷新記云糶町十三丁目ありて四谷津門出り節つき

十丁目ありて三丁ハ津門外今四谷の坂と云ふ所を糶町十三丁

目より此坂より西八丁目より下四谷と名付是甲州より及助と

紀伊國坂

江戸城子云紀伊津城の川の方の坂と云々誤りて乾中津門より赤坂  
へ下る津城より坂と云

間馬場

飯ヶ橋 上ッ本

再板江戸城子云此迄武蔵記録ノ寛永年中依月河村に於て在  
者此坂より依月河村の橋より名付と云々此坂は可なり此  
江戸城子云有の橋大濠より家と云ハ誤りあり此津城より下り  
あり

有の葦子牛込仍光孝子名より強きありて任職の信此子あり

内務省



りて曼供塚に通ひて之の御誤りてうの馬出塚のより後を死す  
それより強き塚とよひてをりらの塚のさきを塚とよひて光寺の旧記  
小あり曼供塚と六郷系のもよきもの光寺代々の碑今も何れとよ  
又説考を此の大海よりさく川子清きころ北の大海の鏡ありて  
信用しつて後ありと云ふ

傳馬町 四谷大木戸迄

天草陳の傳馬の滞あり勅に依り獲たよりして大傳馬町のり  
勅より由り此の強き塚とよひてをりらの塚のさきを塚とよひて光寺の旧記  
り少なりて再版の砂子よむ

四谷南寺町 傳馬町のり

北寺町

大通りのり

伊賀町

南とよむ

新本橋町

伊賀町松平攝津守殿に奉る書に云く此の極本を多しアラキヨコ  
丁と云ふ

牛頭天王神社

四谷

古く中野山仙寺

別当稻荷山宝蔵院

祭神山祇園社同之

神主 浦喜五郎

神社畧記曰公彦根元備後風土記神代直指抄等も素戔嗚尊を  
牛頭天王と云武塔天神氏云三座と云く本縁を未考毎年六月十  
八日午時より同右の午時迄神輿四谷石切町の假座遷座恰も少

内務省



祇園寺跡出の如く、享礼八月十八日、隔年ありと云々

稲荷社

境内あり、此社より神符を出し、其路ありと江戸砂子

あり

掃溜小路

南伊賀町十軒店近不

舟板橋町

傳了町橋所

戒行寺谷

むふふきの一本と云傳了町より戒行寺と云寺の谷と云

恩原橋所

伊豆道

天王社の西側谷の道

南向系信云古老の云天正十八年、傳了町より、延徳小田原、  
高坂相物より、正徳慶長五年より、武州恩城、高坂相物より、寛永十年

恩城を松平信長が、傳了町より、延徳小田原、高坂相物より、寛永十年

伝と呼所の名を恩原と云うと云々

後江戸砂子云、関東傳入玉の節、武州恩城へ傳城あり、其後、後、

伝と呼所の名を恩原と云うと云々

伝と呼所の名を恩原と云うと云々

伝と呼所の名を恩原と云うと云々

四谷雜説云、右馬殿橋所、その東方、廣き茅野ありと云々

の次、傳了町、諏訪左門初る、此所を南く、有付、名之、諏訪の、

与力十一騎同心五十人、お飲、一、住、其、地、坪、五、万、坪、奈

あり、一、段、傳了町、用地、上、り、々、残、り、七、千、坪、あり

町勢當



左門町

右京町

再板云四谷本通横所定永次所女中宛の名あり此永次を其下し  
への名あり

大番町

明曆大火之後<sup>番</sup>丁の木村三右衛門殿此地賜ふ其後大番町宛乃宅地  
を賜ふてより大番町とす

右馬殿核所

四谷雜談云大木戸ノ東に三丁程あり右の方をを迂右と云人住む死  
去後惣次郎左門家督相續後父右馬八幡主之武家の人あり

十郎左門ハ父<sup>上</sup>和<sup>中</sup>仁心ある人あり<sup>ハ</sup>時<sup>ハ</sup>人佛十郎左  
門と呼ばる<sup>ハ</sup>間<sup>ハ</sup>ある<sup>ハ</sup>短命<sup>ニ</sup>して死去<sup>シ</sup>二才男子讓<sup>テ</sup>諸<sup>君</sup>より早  
世<sup>ニ</sup>依<sup>テ</sup>其<sup>ノ</sup>家<sup>ノ</sup>統<sup>ヲ</sup>是<sup>より</sup>右<sup>馬</sup>殿核所と云

夫婦坂

おー京の道

此坂一本云四谷傳<sup>テ</sup>所通<sup>ル</sup>の内<sup>ニ</sup>在<sup>リ</sup>坂<sup>ノ</sup>一<sup>ニ</sup>む<sup>ク</sup>一<sup>ニ</sup>多<sup>ク</sup>奇<sup>ナ</sup>る<sup>ハ</sup>夫婦<sup>ノ</sup>  
あり<sup>ハ</sup>只<sup>ハ</sup>武<sup>人</sup>女<sup>ノ</sup>の<sup>ノ</sup>家<sup>ノ</sup>を<sup>レ</sup>他<sup>ノ</sup>と<sup>シ</sup>任<sup>ス</sup>る<sup>ハ</sup>名<sup>アリ</sup>

稲荷坂と<sup>ハ</sup>子<sup>ノ</sup>坂<sup>ノ</sup>有<sup>リ</sup>鈍<sup>降</sup>稲<sup>荷</sup>舊<sup>ノ</sup>旧<sup>ノ</sup>地<sup>ナ</sup>リ社<sup>地</sup>ハ<sup>ハ</sup>毒<sup>坂</sup>へ<sup>ハ</sup>稲<sup>ノ</sup>あり

坂ハ今<sup>ハ</sup>鉄<sup>砲</sup>町<sup>ト</sup>い<sup>ハ</sup>ふ<sup>アリ</sup>

千日谷

おー京<sup>ノ</sup>西<sup>ノ</sup>角<sup>ノ</sup>の<sup>道</sup>

紫<sup>ノ</sup>一<sup>本</sup>云<sup>ハ</sup>千<sup>日</sup>寺<sup>ト</sup>云<sup>ハ</sup>寺<sup>ノ</sup>名<sup>付</sup>是<sup>ト</sup>永<sup>國</sup>山<sup>一</sup>行<sup>院</sup>と<sup>云</sup>

町  
名  
考



信濃系

今信濃町と云千日寺の永井信濃守殿の墓を名付

仲殿町

徳州の安の病之服部仲殿也一と云

今里俗仲殿町と移元貞有伊賀町と云

大木戸

大関戸と書一由富井土中時海之

求原雜記云性古の墓ヶ巽北大木戸成より其州伊達大木戸武州の  
大木戸と云性古の関所なり一と云

大木戸を云ヶ関と云ふ非なり是古大宗寺の山号誠實

関山と云ふよりあやまらあり大宗寺ハ元辰ヶ巽近邊子

有後北四谷小輪の由あり今以て山を云ヶ関山と云

沙干の里

潮踏の里とも云大木戸の先あり

仲殿町より半町半より西の小方子坂あり潮踏坂と云里俗沙干坂とも

云則坂中下潮踏観音堂あり大木戸の先子沙干潮踏の地名なり

本、  
鋤置あり一四谷鞍ヶ橋谷町隣り西念寺裏門の向ふあり可

考沙干里ハかゝれ子あり坂の誤りなり一

糺屋横町

大木戸の先より少一横町大久保の方より不あり也中ノマ、与力所の

前を云若大木戸の海より大木糺屋其横町あり名付

内藤宿新屋舗

或人説云内藤大和守殿屋敷を十九万坪あり江戸才一乃大屋敷

一と云九万坪あり地とあり一大小名の屋敷と云此内子大名小路あり

内藤宿







神樂の中子方神名のあまひを依く八幡の社他小祠をまゝうつし  
其後又南ふうつし

甲賀町 元を名んしやう龍南能をいふ

旗ヶ谷 元たりやとさき村の里を云

氷川神社 日永

八幡神社 日永

稻荷社 日永

新宿 江戸より二里

追分 新省の先言井土と中腰の追分あり

策の井 追分の先

紫一本云四谷伊賀町の先松平振濤書殿下屋し内ふるとそ元  
和の吹内齋神の表名子名水ありしつと内尋ありしを召す  
此寺齋神の策の汗きるを洗せしきし 而策の井と名付し  
云々

太田川 大田橋 新省の先

むらさねの一本云太田を 四谷新町の先ありとふりしは程あり  
せし里あり

大上谷 又狼谷と云

紫乃一本云其塚の先新町より此を名を程多又を非人多くあり  
とあり



午窪 日一途 不勃 ハタガキ 光明山莊嚴寺持  
是之旗ヶ谷の堂あり村

窪明神社 柏木村 图照寺持

是を大久保分へ窪明神相本村より图照寺境地の隣へ神殿あり  
傳あり義亮此傳不明神表由を問ふ平将門乃甲を誰人を持たり埋之  
ある往古を境塚と云ふなり或時此村疫病流行り此塚に祈禱の人即病  
平愈しりある里人多敬をあり宮を立て窪明神と稱しりるを窪  
速立のく額ふ甲明神と誰人の書りるに後南图照寺別南ふありて  
甲をヨロイナリト申サレケルヨリ今を轉して窪の文字を書りたり甲  
明神とかけり額图照寺に在り社傳あり之ぬ

成子宿 新宿の先 真桑瓜の名物ありこ瓜と云

里神あり昔南ふ小宿あり酒をあり其門小鳴子を付て家の内小徳を  
むるも是をその内よりむる小幸き夜中酒を求む者ありは其門を  
打ち隨く鳴子むる人ありて本宿より出く門を開く是れ鳴子徳を  
とその次之り是れより一々おのほくし雨の名とありてあり子とあり是  
ハソより新宿の町あり時の事なり

天神社 何ふ 图照寺持

おろし橋 落石ありて之を田の方へ入

渡 橋 水車有あり子岩と中腰の石より面影あり又  
安り橋安見橋ともいふ

紫一本云寛永の頃高野寺の村渡橋と改むと 今河へ渡

内務省



楊とよす

江戸伝子云むりー多磨正觀寺某師堂持札不朝日長者昌連、  
書くる所とらる千盃朱千盃黄金千兩錢十六貫銅日さく夕日か  
やく為。中の下ふりくこ水をうらむ町下男不負てけ後を流、  
く下男後不盗むもや何んともて殺くるとてせと下男の流、  
くると人えんとも降多とえんとも不婆不見の楊とよす、  
いと記也 松添義覚十二系伝記ふくま

角笠村

十二系伝記云神宮忌初云宿祢髪長尾女髪を優婆塞稱角笠  
稱漆紙塔稱阿良の皮云

中世長者出京して正蓮とて元神人ありて以優婆塞の後神勢  
子つらり於小於神多の法を用い自稱して角笠といはれつ小地  
名とあまの成て

高井戸

八王子海方あり江戸が三里半

礼居野

高井戸の先

志楽の名物あり

淀橋より西丁南方小懸懸現角笠村と云俗十二所と云山水絶  
系の佳境堅四丁二丁半の地あり池のくこ子ありふりて設け  
の古河の北を角をくとも云り今も設け者の古を并才天下  
り宮の好小瀧あり萩の瀧とて小籠か懸懸を稱する旧地之庵室



旗ヶ谷不動尊

十二ソウヨリ十丁斗更

十貫坂

角谷村と和田村との間の坂あり中野長者此坂におりて目及ぶ限  
り永残十貫文を以て買得たりある名付く

十二所権現

角谷村 社傳云所謂十二處権現本宮

ハ又證誠殿と云伊弉册尊中御前ハ又早玉社ト云速玉雄命西序前結

ト云ノ宮事解雄命若一王子宮ハ天照皇太神相殿國常立尊是を上ノ四の宮と

名付禪師古々忍徳耳尊聖宮ハ瓊々杵尊見宮ハ彦火々出見尊子

守宮ハ鶴茅葺不合尊是と中ノ四社と名付く一万石と火ノ神斬遇

突智命十万宮と土ノ神植山姫命勧請十五所宮ハ水ノ神閑象

女命飛行宮ハ五穀ノ神雅産靈命是ヲ下四社と名付く是々是は熊野

神と云ふ事小應永次於本九郎某と云若有流流ノ武が中野小

く書と云ふ事小任事年何の家負ノ之々若一王子ハ生土の神カ

於を以て室ノ造り此丘陵を後代山小樹ノ小祠を斜建ノ日ノ系々

尊教深く後家富栄ノ尚社を再建十二処神を悉く勧請ノ是

應永十年癸亥あり遂ニ中野長者と稱ル是尚社を崇敬ス之を以て

此事ノあつた事ノ然ル事ノ於市氏草創ス以年三百数十年世移ル

物換テ奉祠ノ寺五總轉教世ノ々々ノ朝五日ノ何ノある寺五悉

く分散シ社務ノ々々ノ民間ノ々々ノ属シ其ノ五田神塚今僅ニ十ヶ

一を收歛ス祭奠常ノ不ノ闕ク村民ノ々々ノ祠を旧寺ノ不ノ壊セんノ志ノ何ノ遂

内 務 省



小里長某成秋寺と相論傍にし、其の論成材民と云ふ公廳不訴へ免許を蒙  
り享保甲申年成秋寺奉祠寧とありぬ、其の論不於て現任大川和尚手親  
荆棘を去り、い糸道を穿き、神供嚴重し、其の礼懈奉り、神光やうや  
國中不可やき感存遠近に少くとも

寺院

雲竜山文珠院

其の宗知是院末

南寺町  
成行寺向

開山法印權大僧都祐信上人寛永十三年丙子六月十日寂也

日照山宗福寺

禪宗勝光寺末

同山文珠院裏

開山嶽室積大和尚

領王山竜泉寺

同山全勝寺末

同山文珠院並也

開山晋庵大和尚

松雲山西應寺

一向宗

神云依嚴命付苗  
東本秋寺末

同山竜泉寺並也

開山周桂

原文

其長十二年一説也

幡龍山永心寺

禪曹洞

竜昌寺末

同山西應寺並

開山桂門和尚

正妙山法恩寺

日蓮宗

妙満寺末

同山松嚴寺並

開山日什聖人

平等山本性寺

同

本寺末

同山法恩寺並

開山日詠上人

金剛山顯性寺

其の宗

宝泉寺末

同山本性寺並



開山賢秀法印 兼應二癸巳正月廿七日寂

妙性山正覺寺 日蓮宗 身延末 日永顯性寺並

開山蓮光院 日耀聖人

深谷山長安寺 淨土 智恩院末 日永正覺寺並

開山心蓮社 深譽上人

妙典山戒行寺 日蓮宗 身延末 日永文珠院向

開山日養上人

寺中 因立院 本壽坊 覺妙坊 溜靜坊

苗寺寬永之改立と戒行寺とと翻町一丁目湯堀端より常題目執行  
の小巷あり安んず某力を合きて終小一寺と成りて之を再板江

戸吹子小出

法輪山勝興寺 禪宗 クマカハ 東行寺末 日永戒行寺並

開山雪庭春積大和尚

寺中 清岩院 谷田院

專称山西念寺 淨土 西福寺末 谷町 日永

開山服部半藏 後号長州 出家の後西念と稱し初翻町貝坂小巷居

後西念寺と云今四谷石町子稱する右半藏所持の鎌一筋之不可

寺中 長閑院 信壽院

錦敬山海繁寺真成院 寺末 宝仙寺末 日永

開山清心法印



塩踏観世音

畧縁記云人皇六十三代村上天皇護身の尊像之於是村上肥後守頼  
清公乃不此觀者崇信一其後堂宇を造り安至一其の其後大坂陣  
の砌村上寛玄縁南寺第三世審心子禳り南寺小安寺一本堂と別  
之支海より出現の灵仏故塩踏乃觀者と云傳へりこれハ潮満時月を  
岩座小潤ひを生一沙干小なれハ本の如一日ニ是成誠多し時刻遠  
有一其塩干觀者とも号一其の其後數度乃回祿小岩座焼失し而  
身をり出せり屋代入山吾妻 飯田 平地 小野 沢 平屋 今里 北  
野 岡田 等の氏中本有るありと云

江戸歎子云此本有る村上義清の守佛あり義清末流村上兵部入

道道樂縁を要め米沢子行り一六坂陣陣小立其後江戸小帰白

南寺開山清心法印ハ射の師より浪人の内南寺小寓其後水戸  
の清心之出初すとの改此本有る南寺小おさむと云

按多不昔傳と江戸歎子の説甚く遠し予々昔傳をそのま  
小祀す一後人乃れり是の如んや改む

放向山蓮乘院 日根生院末 日水

開山法印鏡眼

醫王山安樂寺 天台 上野末 日永東福院並

開山 原文

十股山愛染院 真言 護持院末 日水



開山上清上人

寶勝山園道寺

小溪末

社藏寺向

開山系文

稻荷山妙行寺

日蓮宗身延末

天王町守藏院隣

開山日純聖人

高見山日宗寺

日 小溪末

日宗 南寺町 東福寺ウラ

開山了園院日童上人

元和次迄極町清水谷小石弘法山東蓮寺と云後妙之福より高

次再奥ありと云

夜明鬼子母神

日随上人作

阿詳山東福院

支云

日宗 南寺町 安楽寺向

開山系文

五却山切辯才天法藏寺浄土増上寺末

日宗 日宗寺並

開山末蓮社大誓永蓮和尚 天正十八年開基松平倉庫改どの瓦鋪

内子あり後小一寺と云

瑞溪山祥山寺

禪宗

種徳寺末

日宗法花寺トナリ

開山壁莫趙座元禪師

園通寺

開山系文

雄峯山金勝寺

禪宗

岩附 常泉寺末

日宗 松平中將右大臣 ムカフ

内務省



開山青繁和尚 寺中 全德寺

涼雲山西迎寺 浄土 増上寺末

小寺所 全勝寺ノ隣 曰尔 傳子所

開山儀蓮社仁譽上人西迎和尚

苗寺住古紅葉山より故小紅葉山と云太田道灌の家臣伏見勘七郎  
と云人開生寺の由寛永十二年今の四谷小寺町不務より紅葉山金湯宮  
所と云る涼雲山と山号を改正し其寺に竹器佛具等には紅葉  
山と書て今小寺寺小傳小説人傳より見らる

宝林山養國寺 禅宗 竜昌寺末 曰尔西迎寺隣

開山祥儼寺大和尚

泰翁山全長寺 曰 全勝寺末 曰尔養國寺隣

開山約巖親大和尚

正覺山地福院 天台 教覺院末 曰尔 全長寺ノヨコ向  
ニホ丁一丁目ヨコ

開山慶存法印

増光山浄運寺 浄土 智恩院末 曰尔地福院ノ隣

開山伝蓮社念譽終故上人竜抱大和尚

四谷浄運寺の山と見く菊亭大納言伊秀卿

おもしろき事なりふしき事なりと見え八山におく所。庭を是ありぬ

双光山延壽院 天台 上野末 曰尔浄運寺隣

開山覽榮法印

青龍山法雲寺 一向宗 东 曰尔延壽院隣



開基周水

四谷山正應寺

曰 曰

曰 法雲寺トナリ

開基律師淨專

園通山安祥寺

天台 自光院末

曰 西應寺トナリ  
シホ丁ノヨコ

開山竟歡法印

光明山真福寺

曰 上野末

曰 安祥寺ウラ  
シホ丁ニ丁目ヨコ

朝日藥師

開山重園法印

天長山永昌寺

禪宗 竟昌寺末

曰 真満寺隣

開山舜洞大和尚

天照山光園寺

天台 山五門徒

曰 永昌寺トナリ

開山賢雄法印

自然山和光院

真言 智積院末

曰 光園寺隣

開山法印果秀

卧雲山竟昌寺

芝 吾松寺末

曰 シホ丁

開山瑞翁俊族易大和尚

筈寺四谷山長善寺

相分 禪曹洞 法泉寺末

曰 南側  
シホ丁三丁目

開山文叟隣学

以戸破子云南寺を筈寺とすハ寛永次侍齋時の時立すをのふ  
南寺更次寺号ハ列長善菴とす此不敷の中より小筈能善



ゆりけのハ甚寺とよぶなりと 嚴命有りて昔を失ひぬと  
し方一坪の笹を之かむと云

日輪山園照院了学寺 浄土 南伊賀町

開山團蓮社照了学上人本尊出世阿弥陀惠心僧都作

禅雲山福壽院 禅宗 傍興寺末 日永

開山雪庭積大和尚

地藏堂 觀音堂 稻荷社 市ヶ谷の郊に入

鎮護山園

開山日須上人

以下系欠

開山日須上人... 尾形佛菩提所書取二百五十石佛寄附のより江戸砂子も出

蜘蛛の井 境内あり

宗一本ニ山際より空頂より涌水あり毒何れも飲者死に教たり昔土  
蜘蛛の巣なりと云渡邊徳三田より一町土蜘蛛を志し之をさ南水の  
なりと云江戸砂子あり此穴のふいふ山此社の山際此地あり何や  
まらおのりりりれハ是成埋何れも子本寺の目より不用水の井を堀是成  
蜘蛛の井と名付一是古跡をうーあはさる乃高き一ありと何り  
予て是此寺よりして尋る本堂成節本化といひてソル

内務省



の如し本城集名を造るその奇功をえんりありむう一尾州  
の涉殿ありしを南寺新編の時本堂を清寄附ありしとや  
其處を境内の土地甚く廣く一万余ありしと云

系欠

源慶寺 日向宗 東

系欠

開基

万亀山東長寺

禪

傳興寺末

日向

開山雪庭春積和尚

法真山 理性寺

日向 蓮宗

越後

本成寺末

内庭宿

開山日亮 聖人

万治三年起立開基久世三郎右衛門殿

霞關山 大宗寺

浄土

増上寺末

日向

開山念譽 故心覺玄和尚 南寺元と云 冥洞 塚あり山号と云 冥山

と云 妙地 花二書目 沙門 五元坊 建立 工 詳 志

明了山 正受寺

日向 宗

日向 宗

日向 宗

大宗寺のウラ 尾崎よりき向

開山定譽

十都山 成覚寺

日向

日向

日向

正受寺人並

開山岩 譽瑞翁

開山護本山 天龍寺

禪

冥得寺中大照院末 一説は開有在昌寺末

退分

大木戸の先 時の禪を

開山春屋 和尙

開山松 苔山 西方寺

浄土

彰智忍院末 万随院末也

日向 成子子寺

開山律真 譽上人

開山律真 譽上人



福聚山常因寺 日蓮宗 上妙宝田 長年寺末 日永成子

開山中興十三世日能上人 名亦乃志き極あり

親谷山聖輪寺 真言 和州長谷寺末千路ヶ谷 能勢寺末

開山行基菩薩 和州長谷寺末千路ヶ谷

觀音 本尊 如意輪 行基作

江戸砂子云是を眼玉の觀音と云ふより賦を本尊の玉眼むりて金何とて思き出ぬそのみみ玉眼を指ありてこの害せしめて

死を待南地より千余歳を強る灵場より淺子觀音と南寺ありとて

高耀山寂光寺 天台宗 上野末 日永

開山 月 宗 贈 聖人百宗開基大僧都因雄 山寺と云ふ

南寺と云ふ貝塚より南地は築の所け地不移始日蓮宗より元禄の次天台宗よりありとあり上人

遊女の松 境内より

江戸砂子云始き雲の松と云昔是お海乃中より原あり此松云是云によりてりかると寛永の次は應永と云此松より一り法二姉一と傳り寺僧を召しとて松の名を法孫あり一り雲の松とやりの舊紙遊女とやせよ自今改て松女の松とよぶ一と釣命有り別汝此松を飯新ふ方切よまて一と云の松是様かこふ一と法杖の所今千坪子及寂光寺の寺地の外之

長慶山 廣 立法寺 日蓮宗 誕生寺末 日永 宿禰院

内務省







測

寶嚴山竜谷寺

禪 上分 竜源寺末 日宗

開山延外祝大和尚

◎放光山龍潭寺

日宗 黄蘗末 日宗

深山

長周山栄林寺

開山法音院日實大徳

大覚山因應寺

開山缺牛禪師 中興別峰和尚寛文八年創立

長岡山一行院 千日寺 浄土 日宗 千日谷

開山兼譽故念和尚

◎栄孤山香蓮寺

開山静蓮社戒譽上人

長明山法善寺 日蓮宗 小湊末 日宗 湯先寺並

開山遠光醫道聖人

題妙山本迹寺 日宗 香蓮寺

開山日清上人

◎妙性山正覚寺 日宗 身延末 日宗 香蓮寺マハ

開山正覚院日如聖人

開山専念山尋光院 日宗 西本願寺末 日宗



開基祐念了順

醫五山園眼寺

入真言

與樂寺末

柏木村

大久保百人町  
先向谷世谷内

開山

原久

辨才天社

弘法大師之作

藥師堂

右束門楹

藥師堂のふり

室一本子阿久江戸麻子江戸双子子此花を委妻記凡

近き道より武田右ふり浪人まきまき此堂を堂以此本老本より

本本の枝楹一残りの右束門有もきてあつたに本楹をほきしに継木

乃上よりこれ一枝葉棠之をまきしに急考をなきし右の継木のまき

らこれハよりまきまきの楹よりまきまき相木右束門下りし時楹より

楹ありと奇説なり源氏物語をゆりしにゆりしとまきまき人のいひ出せ  
れ

長徳山妙行寺

日蓮宗

本城寺末

飯ヶ楹本迎寺末

開山和泉院日善聖人

原久

瑞園寺

千駄ヶ谷邊

高耀山寂光寺

此寺削削然

上野末

開山月宗聖人

合宗開基大僧都園雄

全上

長廣山立法寺

誕生寺末



開山日了聖人

◎法雲山仙壽院

甲州大野  
本遠寺末

開山日遠聖人

高雲山隨園寺

相州  
宝泉寺末

開山天空宗祝

較ヶ橋邊

◎宝巖山竜谷寺

上州  
龍源寺末

開山延外祝大和尚

◎放光山竜潭寺

黄蘗末

開山

原久

長徳山妙行寺

本成寺末

開山智泉院日善

◎銀樹山涼泰院林光寺

西末

開山哲道律師

◎妙性山正覺寺

身延末

開山正覺院日如

◎栄孤山香蓮寺

灵巖寺末

開山報蓮社寂參上人

◎白岩山崇源寺

智恩院末

開山

原久



天明山妙同山ナラン本迹寺

小湊末

開山日清上人

久翁山教昌寺

上妙  
竜花院末

開山原火

◎高月山長善寺

所ハ花房ノ後増上寺末

開山浄蓮社发参瑞翁上人秩佛あり

◎龍泰山發昌寺

上州沼田  
就本末

開山吟室竜大和尚

專念山三母カ春光院正恩寺 本教寺末

開山祐念了順法師

東國高僧傳

中野

竟惠比國記仍云水無月古公武苑野の内中野と云處一平重傳  
とる傳り小とて妙とる銅窟子金入を瞻望をふ何事のそ葉の末  
と只ふ吾の之掛きるをかきりとありいゝ又中野とるの里へ歸り傳り  
露をふ及を袖よりむる消のそ葉ふくむさの系  
求原雜記云武苑野の中なる所中野とる性古ハ此武苑野の上野中  
野末野とる所と上野末野不詳と云

神明社

内務省



氷川社

真言

宝仙寺持

桃林

享保の頃約命を極せしむるに桃林本に桃林本の  
 上りて甚佳系あり此桃林の中小言守山河一  
 場あり一を地馳走山と云ふは桃林を足知海  
 風系言ふは  
 了る一享保比次築きし山に侍小大木の  
 台命小依多神一極の松あり

石神の橋

桃林下子河

石神と小あり

佐五石束門橋

石神橋乃次

小川小か、類あり

豊橋

没ち一を言ふは少キ橋あり小橋小あり  
 はしめ没橋の次不出せし是を再出

明王山聖無動院宝仙寺

真言

彰義派 寺歴古三三六半余

寺家

普門院

開基寺の年

曆

一〇〇〇に往古と大寺あり一〇〇〇大永の次あり教

度の戦場も破壊し一〇〇〇江戸歎子あり也

中野塔

と成教寺の塔あり今もその形成教寺あり塔及云云その塔

中ノ安延と云ふの聖塔を子彫刻の釈迦一神今成教寺客殿乃本寺あり

福王山慈眼寺

宝泉寺末

開山

系欠

西光寺

曰

乃寺



開山全

新昌寺 禅宗 金就寺末

開山全

多宝山成教寺 四曹洞 古刹 香雲寺末 中堅本郷村

寺傳云中聖長者其德永十三丙戌年一女を生れ長志陰惡より  
く蛇身とあり父母驚しくおれ岡本最乗寺の春屋和尚を招請し  
禅師とて居りふあり池のほとり安座観念すありち真窓正観  
禅女の血縁を池才に投一日、偈を授く彼蛇像を棄し禅師を相  
し上天しぬ長考禅女の侍を離れ始終を感見するを以て旧宗を捨  
て禅師降し法衣受戒し正蓮と改名し居宅をこわちて精舎と

あり娘の法名正観の文字を以て寺号とて正観寺境内に諸堂及び

三層の塔を造立し一生優婆塞を勤行し永享十二年庚申の年

六十九歳より死正蓮の塚境内にあり其後文明八年丙申春屋師四世

川菴和尚南寺に董席しと塔院を挑り嗣を連綿し

代々木

江戸坂子云中聖の先宇多野より遷り廣坊より打開き菩提を  
連りてよき抄りの地あり武蔵野の内

天神社 代々木山谷村 別当三寶院 大正院

往古より跡在りて南ふの結せあり

八幡神社 別当天台 宝教院門中 福泉寺

寺



鞍掛松

兼保二年五月八日右所義弘兵衛武衛征伐の時高平陣旅あり父叔  
義入道死去乃告あり一六騎し七五日代、本義龍居河、其河芦  
毛馬止此松下はあき鞍を掛ふせしとあり此辺に芝毛といふ處ありと  
江戸吹子出

白山控現

宝池山不断院清岸寺 浄土 傳通院末

開基土井氏正播磨正春尼也是と此本山の大姥と稱して乳人  
なり代之本村二首石を修せし時高寺を建立せしと

榎松

代之本中江八幡近所之畑の中子あり至て古木あり板中與より松の樹  
相生の如し西榎枝葉茂りしとあり

武藏野

武藏野地名考云云是と十郡小跨りて西六秩父根東を海北ハ河越  
南を向ヶ尾郡築原と云ふ古文書あり證と云ふ一 百年の本民  
居村里と成と云ふ昔の秋乃付今子強くと平原と云ふありと云  
秋宗久都の法と云ふむさしのまをあき及小形くれて雲を道居き  
乃僧なりとあまの河りし皆かりその枕をむまひてとあり傳りし  
野と云ふも盗人河りてまやりしハあふきそと云ふ謠きなりと云ふと云ふ



りとはほくやとおもひしは昔の衣ささむきをうらうら白浪のおそら  
の軍あちふいと、旅の床も物うくちをゆるし

いとそらハくらほしやハ露の身のうきまむさし野の原

宗祇回國記云文明十八年此歌をたの腰すかき神くつらくは花を枕

かかすしきすこしはとろとる覚れハ

そちりしきの枕の露の身はあき路うは海ふむさし乃京

武能晴きふく里神の秋の夜むさふ着路もそあうらん

万葉集

むさしの着きあらむきかかゆるるるはれハよき山さき

世し何とおもひせんむさし神のうらり兼の花あきあのみ

古今集

よみ人

むさし神の本也ハ武能晴のきさみあうるる

後撰

貫之

女郎系もあつ秋のむさし神ハつとゆるもあをむつまきうら

拾遺

平兼盛

むさし神を吾務のたえゆるるはせをひさきむちてすせ

新古今

通亮

むさし神のむさし秋のむさしあきうら風のまよ吹ん

新撰撰

西行法師

むさしあきうらむさし武能晴のき乃をむさし秋の初風

夕夕自



續古今

大納言通方

むさしねき月の乃海き山の句一尾系つすしうのあき

續拾遺

正三位知家

冬の日の中いふもあき夕暮小あふ里きむさしの京

同

後二位家隆

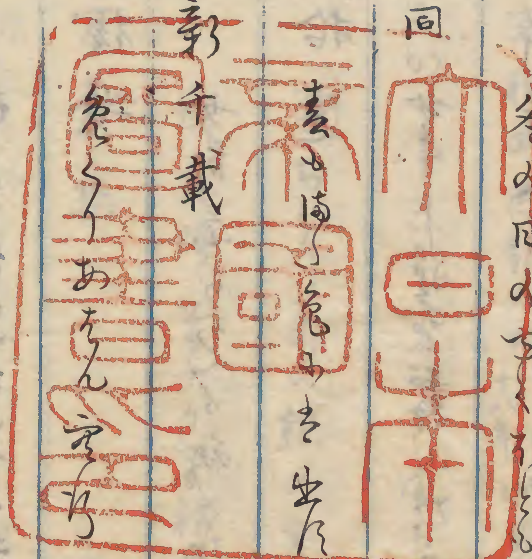
春の海に巻のき生月暮ののやあきあきの下子

新千載

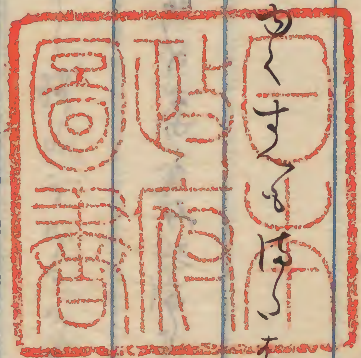
前中納言定家

春の海に巻のき生月暮ののやあきあきの下子

あき



新編江表卷之六終



明治十年五月

大野見松正校



夕香自



大正十二年五月

大正十二年五月

大正十二年五月



